

修道院と寄進者

—ヨシフ・ヴォロコラムスキー修道院への寄進を通して—

細 川 滋

- I はじめに
- II 修道院領居住者
- III 中小領主や従僕など
- IV 大公・諸公・貴族層
- V その他
- VI おわりに

I

ヨシフ・ヴォロコラムスキー修道院の収入帳簿には、修道院が入手した貨幣あるいは現物が、それらがどのような経緯で修道院の所有物となったのかも含めて、記載されている。これらの入手形態の中で、修道院など宗教施設に特有なものは、人々の寄進行為によるものであろう。典型的な場合には、寄進や贈与を意味する вкладあるいは дача という表現が使われている。ただ、収入帳簿中の表現から、寄進あるいは贈与（以下、一括して寄進と表現する）であるのか、単なる現金の引き渡しであるのか、また、現金の引き渡しは、寄進によって生じたものであるのか、あるいは徴収によって生じたものであるのか、などを判断することが難しい場合もあり、注意が必要である。

さて、寄進の動機はさまざまであろうが、修道院への寄進という行為には、基本的には、宗教的動機に基づく、自発的なものであるという点で、共通するものがあると思われる。したがって、

- ① 同日（1573年5月4日以前—引用者（以下同じ））、修道士ヤキムは、両親のために貨幣1ルーブリを寄進した¹。

¹ Вотчинные хозяйственные книги XVI в. Приходные и расходные книги Иосифо-Волоколамского монастыря 70-80-х г. Под редакцией доктора исторических наук А. Г. Манькова. М.-Л., 1980 (Далее ВХКпрк) . С. 1.

- ② 同月 30 日 (1573 年 8 月 30 日), マリュータの妻マリヤは, 娘婿イワン・キルママエヴィチ公のために 50 ルーブリをヨシフ・ヴォロコラムスキー修道院に寄進した²。

のような, 近親者に対する魂の安寧を願って, という場合であるとか,

- ③ 同月 5 日 (1573 年 5 月 5 日), ワシーリー・ユーリエヴィチ・ゴリーツィン公は, 短い祈りのために 0.25 ルーブリを寄進した³。

- ④ 同月 9 日 (1573 年 5 月 9 日), ピョートル・チュチェフのために, 死後 40 日間の記憶祈祷用に 1 ルーブリ, 埋葬用に 0.5 ルーブリ, ろうそくの費用として 2 グリヴナを寄進した⁴。

- ⑤ 同日 (1573 年 5 月 9 日), 信仰心の厚い人々は, 短い祈りのために 17 アルトゥインを寄進した⁵。

- ⑥ 同日 (1573 年 5 月 10~12 日のいずれか), グーレイ・ストゥピシンは, 兄弟アンドレイのために, 死者の追悼祈祷用に 1 グリヴナを寄進した⁶。

のような, 短い祈りに関わるもの, 死後 40 日間の記憶祈祷・埋葬・ろうそくななどの費用に充てるもの, 死者の追悼祈祷に関わるものなどは, 明らかに宗教的儀礼に含まれると思われるが, 自発的に行われる寄進行為であると理解することもできるであろう。

また, 過去帳への記載, 記憶録への記載, 永代供養なども, 宗教的儀礼に関わる必要経費と位置づけることもできるが, この場合,

- ⑦ 同月 24 日 (1573 年 7 月 24 日), マモシノ部落の農民オルチェメイ (コンドラートの息子) は, 自己の魂の安寧のために永代記憶録の費用として貨幣 3 ルーブリを寄進した。この彼の寄進に対して, 永代過去帳の永代記憶録に記載しなければならない⁷。

² Там же, С. 8-9.

³ Там же, С. 1.

⁴ Там же, С.2.

⁵ Там же.

⁶ Там же.

⁷ Там же, С. 7.

- ⑧ 同月2日(1573年8月2日), イワン・セメノヴィチ・チェレミノフは、ヨシフ・ヴォロコラムスキー修道院に貨幣50ルーブリを寄進した。このイワンの寄進に対して、イワンの健康のため、彼の存命中は短い祈りを神に捧げなければならない。イワンの死後は、永代過去帳及び日々の名簿に彼の名を記載しなければならない⁸。
- ⑨ 同月29日(1573年6月29日), 修道士ヴァシアン・ベリスキーは、両親のために貨幣15アルトゥインを寄進した。この彼の寄進に対して、過去帳に3人の名前を記載しなければならない⁹。

のように、「寄進の代償として、次のことを行うように」という表現が使われている事例もあることから、寄進の一種であると捉えることもできるであろう。

当該修道院の収入帳簿に記載されている寄進者に目を転じてみると、特定の個人あるいは複数の人物で名前が挙げられている場合と、不特定の「信仰心の厚い人々」あるいは「神に選ばれし人々」のように、特定の個人を示すのではなく、名前が挙げられずに一般的な表現で記載されている場合の2通りの表現が見受けられる。名前が挙げられている寄進者の中には、後述するように、モスクワ大公をはじめとする諸公、貴族や近隣の小領主(多くはシン・ボヤールスキー)だけではなく、農民や商工業者も含まれている。

そこで、本稿では、1573年5月～1574年4月29日、1575年7月26日～1576年7月24日、1579年4月7日～1580年3月27日、1581年5月1日～1582年5月18日、1587年12月1日～1588年5月21日の収入を記録した帳簿の、広い意味での寄進に関係する個所の検討を通して、どのような人々が当該修道院と関わりを持っていたのかを検討してみたい¹⁰。その際、当該修道院の修道士

⁸ Там же.

⁹ Там же, С. 5.

¹⁰ 当該修道院の寄進帳については、Титов А.А. Вкладные и записные книги и Волоколамского монастыря. М. 1906. が存在するが、筆者未見のため、利用できない。但し、これは、15世紀末から16世紀初めにかけてのものであり、本稿で対象とする時期とは異なる。むしろ当該時期に関係する史料は、ア・ア・ジミンによって1584年のものとされている Записные книги и Обиходник игумена Евфимия Туркова であろう (Зимин А.А. Княжеские духовные грамоты начала XVI в. // Исторические записки. 1948. Кн. 27. С. 269. Прим. 19)。この史料からの抜粋もドミトロフ主教レオニードによって公刊されている (Выписка из "обихода" Волоколамского Иосифова монастыря, конца XVI века, о дачах в него для поминове-

や院長については、本人というよりも、彼らの縁者に関係する限りで取り上げることとし、中心は、彼ら以外の人物に置きたい。

なお、当該修道院への寄進者については、すでにア・ア・ジミーンが、当該修道院の文書類、1550年代の Дворовая тетрадь、17世紀の土地記載文書を利用しながら、ヴォロク公、ルザ公、ドミトロフ公などの分領諸公、彼らを取り巻く貴族や書記、また、モスクワ大公、貴族、在地領主、ジェチ・ボヤールスキエ、商人、農民、ジェチョーヌィシなど、当時のロシア社会の全階層について、詳細な検討を行っている¹¹。

本稿では、このジミーンの研究を参考にしつつ、利用する史料を限定した上で、寄進者をより具体的な形で抽出することを目指したい。そこで、寄進者として登場している人物を、

- (1) 農民・手工業者・漁師などのうち修道院領居住者
- (2) 中小の領主層
- (3) 大公・諸公・貴族など

に区分し、それぞれについて見ていくことにする。

II

修道院領内の居住者には、農民・手工業者・漁師などや、修道院に雇用されている人々のように、生産に従事している人々と共に、村内の教会の司祭などが含まれている。まずは、農民から始めよう。

ния по умершим / Леонид, еп. Дмитровский // ЧОИДР. 1863. Кн. 4. С. 1-8)。この抜粋は月ごとに配列されて、誰のために寄進されたのかを中心に記載され、時に寄進者の名前、寄進内容、寄進者の修道院との関わりへの言及がある（Чернов С. З. Волок Ламский в 14-первой половине 16 в. М. 1998. С. 27)。この抜粋については本稿でも検討を加えているが、あくまで抜粋であり、本稿で取り扱う寄進数には限界があることをお断りしておかなければならない。

¹¹ Зимин А. А. Крупная феодальная вотчина и социально-политическая борьба в России (конец XIV – XVI в.). М., 1977, С. 101-153.

II-1 農民層

II-1-1 農民であることが明示されている人々¹²

はっきりと農民であることが明示されていて、かつ名前が記載されている人物として記載されているのは、

- (1) トゥルイズノフスカヤ・ヴォロスチの農民ミーニャ（イワンの息子）¹³
- (2) ボラシコヴォ村のマントゥーロヴォ部落の農民オニシム・スタロイ¹⁴
- (3) ボラシコヴォ村の農民グリシャ・オバコモフ¹⁵
- (4) ルコヴニコフスカヤ・ヴォロスチの農民イストマ・ジヴォグラゾフ¹⁶
- (5) オスタシコヴァ・スロボダーの農民イワン（レヴォンの息子）¹⁷
- (6) オスタシコヴァ・スロボダーの農民イワン・ストゥルピン¹⁸
- (7) オスタシコヴァ・スロボダーの農民ガヴリーロ（タラスの息子）¹⁹
- (8) オスタシコヴァ・スロボダーの農民グリゴリー・メシチェルスコイ²⁰
- (9) オスタシコヴァ・スロボダーの農民ユーリー（フォファンの息子）²¹
- (10) ズブツォフ村の農民クジマ（ミヤシシチェフの兄弟）²²
- (11) フォウストヴァ・ゴラ村の農民イワン（ヴラスの息子）²³

¹² ボラシコヴォ村のマントゥーロヴォ部落の農民アフォナーシーを過去帳に記載するため、2.5 ルーブリを寄進した事例があるが、寄進者が不明であるため、除外した（ВХКпрк, С. 191.）。

¹³ おじの名前を過去帳に記載するため 0.5 ルーブリ（Там же, С. 16）。

¹⁴ 33 アルトゥイン、ライ麦と大麦を 5 チェーチずつ（Там же, С. 21-22）と剃髪に際して 3 ルーブリ（Там же, С. 102）。

¹⁵ 兄弟ワシーリーのため 2 ルーブリ（Там же, С. 155）。

¹⁶ 彼は、仲間たちとともに、ヴォロスチを代表して短い祈りのため 5 ルーブリを寄進している（Там же, С. 99）。

¹⁷ 短い祈りのため 1 グリヴナと 4 グリヴナ（Там же, С. 87, 185）。

¹⁸ 村を代表して短い祈りのため 1 ルーブリ（Там же, С. 145）。このイワンと上の（5）のイワンは、同一人物である可能性がある。

¹⁹ 5 ルーブリ（Там же, С. 151）。

²⁰ 短い祈りのため 1 グリヴナと 0.5 ルーブリ（Там же, С. 92, 102）。

²¹ 短い祈りのため 0.5 ルーブリ（Там же, С. 145）。

²² 価値は分からないが、テーブルクロス（Там же, С. 95）。

²³ 7 ルーブリ相当の蜂蜜 14.25 プード（Там же, С. 18-19）。

- (12) ファウストヴァ・ゴラ村出身の農民ワシーリー (ヴラスの息子) ²⁴
- (13) ファウストヴォ・ゴラ村出身の農民クリヤン²⁵
- (14) イワノフスカヤ・ヴォロスチのスパスコエ村の農民セメン・オヴロフスコイ (フィリップの息子) ²⁶
- (15) イリイツィノ村の農民イワン・ベケト²⁷
- (16) ウスペンスカヤ・ヴォロスチのレリュシキノ部落の農民フォードル²⁸
- (17) リトヴィノフスカヤ・ヴォロスチのノヴィンカ部落の農民ソフラン²⁹
- (18) レストヴィツィンスカヤ・ヴォロスチのオボブロヴォ村の農民ピョートル³⁰
- (19) レストヴィツィンスカヤ・ヴォロスチの農民セメン³¹
- (20) マモシノ村の農民アルチェミー (コンドラートの息子) ³²
- (21) トゥシノ村の農民ラザリ³³
- (22) ヴィシェンスカヤ・ヴォロスチのジャトロヴォ部落の農民ヴラス (フロルの息子) ³⁴
- (23) ヴィシェンキ村の農民で大工のヴェリーガ³⁵

²⁴4 ルーブリ (Там же, С. 19)。上の (11) のイワンとこのワシーリーは兄弟であろう。この点は、ファウストヴァ・ゴラ村出身の農民イワンとワシーリー兄弟 (ヴラスの子どもたち) が、父母の永代供養のため 0.5 ルーブリ寄進していることから示唆されている (Там же)。

²⁵短い祈りのため 1 グリヴナ (Там же, С. 103)。

²⁶両親のために 6 ルーブリとライ麦 30 束 (Там же, С. 12), さらに, 3 ルーブリ (Там же, С. 87) と 10.5 ルーブリ (Там же, С. 188)。

²⁷6 ルーブリ (Там же, С. 139)。

²⁸剃髪に際して, 2 ルーブリ (Там же, С. 150-1)。

²⁹剃髪に際して, 4 ルーブリ (Там же, С. 201)。

³⁰生誕祭の祭に短い祈りのため 0.5 ルーブリ (Там же, С. 193)。

³¹剃髪して, 4.75 ルーブリとライ麦 10 束 (Там же, С. 10)。

³²自己の魂の記憶録への記載のため 3 ルーブリ (Там же, С. 7)。

³³剃髪の際, 衣服のために 2.5 ルーブリ (Там же, С. 197)。

³⁴5 ルーブリ (Там же, С. 86)。ジャトロヴォ部落は, ヴォロク郡ホヴァンスキー・スタンのホヴァン村に所属する部落である。

³⁵1.5 ルーブリ (Там же, С. 246)。彼は, 以前にも 6 ルーブリ寄進している。

- (24) フェドロフスカヤ・ヴォロスチの農民スチェパン・オグロ布林³⁶
- (25) フェドロフスカヤ・ヴォロスチの農民コロリュージャ³⁷
- (26) ヤロポルチ村の農民セメン・レニンスコイ³⁸
- (27) ジゴロドヴォ出身の農民サヴァ・チェルネフスコイ³⁹
- (28) チェクレヴォ部落の農民セメン⁴⁰

のように、28人の農民が登場している。

これらの人物のほか、農民とは記されているが、名前は記載されていない事例として、

- (1) オスタシコヴァ・スロボダーの農民たち⁴¹
- (2) ズブツォフ村の農民⁴²
- (3) ヴィシェンキ村の農民⁴³
- (4) ヤロポルチ村の農民⁴⁴

を挙げることができる⁴⁵。

II-1-2 オスタシコヴァ・スロボダーの農民であろうと思われる住民⁴⁶

³⁶短い祈りのため 0.5 ルーブリ (Там же, С. 90)。

³⁷上記のスチェパンと共に、短い祈りのため 0.5 ルーブリを寄進している (Там же, С. 90)。

³⁸1 ルーブリと 3 ルーブリの計 4 ルーブリ (Там же, С. 183)。

³⁹剃髪に際して、28 ルーブリ (Там же, С. 195)。

⁴⁰剃髪の際に、1 ルーブリ (Там же, С. 153-4)。チェクレヴォ部落は、ヴォロク郡シェストリンスキー・スタンに存在する。

⁴¹短い祈りのため 0.25 ルーブリと 4 アルトゥイン (Там же, С. 16, 17)。

⁴²短い祈りのため 4 アルトゥイン 1 ジェーニガ (Там же, С. 6)。

⁴³短い祈りのため 10 ジェーニガ (Там же, С. 88)。

⁴⁴短い祈りのため 1 グリヴナ (Там же, С. 12)。

⁴⁵このほか、府主教の農民が短い祈りのため 2 アルトゥインを寄進している事例があるが (Там же, С. 102)、修道院領内居住者ではないと思われるので、除いておく。

⁴⁶いずれの場合も、「オスタシコヴァ・スロボダーの」、「オスタシコヴァ・スロボダーの住民」、「オスタシコヴァ・スロボダーの人」と呼ばれている。

農民とは明示されていないが、おそらくオスタシコヴァ・スロボダーの農民と推測される人々として、

- (1) アヴラーム・ミャフカヴォ⁴⁷
- (2) イワン（レヴォンの息子）⁴⁸
- (3) グリゴリー・メシチェルスコイ⁴⁹
- (4) コフコ⁵⁰
- (5) サムハ・ズロビン（ズロバ・ゴーリスキーの息子）⁵¹
- (6) ズロバ・ゴーリスキー⁵²
- (7) 剃髪者セルゲイ（俗名ステパンで、ガヴリールの息子）⁵³
- (8) ダニロ・モシェンニコフ⁵⁴
- (9) フョードル⁵⁵
- (10) ブルコ⁵⁶

⁴⁷レヴォンとマセイと共に、短い祈りのため 25 アルトゥインを寄進（Там же, С. 156）。

⁴⁸マクシム・バプハと共に、短い祈りのため全村を代表して 1 ルーブリと、自発的に 12 アルトゥインを寄進したものである（Там же, С. 101）。

⁴⁹ダニロ・モシェンニコフ、サムハ・ズロビンと共に、村を代表して短い祈りのため 1 ルーブリと、自発的に 1 ルーブリ 8 アルトゥイン 2 ジェーニガを寄進している（Там же, С. 106）。彼は、単独でも、短い祈りのため 1.5 ルーブリ 1 グリヴナを寄進している（Там же, С. 86）。

⁵⁰自発的に短い祈りのため 2 グリヴナ（Там же, С. 10）。また、彼は、マクシム・バプハと共に、全村を代表して短い祈りのため 0.5 ルーブリを寄進している（Там же）。

⁵¹父ズロバのため 10 ルーブリと、22 ルーブリ 1 グリヴナ相当のニシン 13 樽、父のため 8 ルーブリ、父ズロバのため 10 ルーブリ（Там же, С. 93, 98, 100）。また、後述のグリゴリーやダニロ・モシェンニコフと共に、村を代表して短い祈りのため 1 ルーブリと、自発的に 1 ルーブリ 8 アルトゥイン 2 ジェーニガを寄進している（Там же, С. 106）。

⁵²短い祈りのため 1.5 ルーブリ 1 グリヴナ（Там же, С. 86）。

⁵³45 ルーブリと 5 ルーブリ相当の去勢馬、コルムのため 3 ルーブリ（Там же, С. 190）。

⁵⁴グリゴリー・メシチェルスコイとサムハ・ズロビンと共に、村を代表して短い祈りのため 1 ルーブリと、自発的に 1 ルーブリ 8 アルトゥイン 2 ジェーニガを寄進している（Там же, С. 106）。

⁵⁵両親の名を過去帳に記載するため 0.25 ルーブリ（Там же, С. 2）。

⁵⁶短い祈りのため 0.25 ルーブリ（Там же, С. 155）。

- (11) マクシム・バブハ⁵⁷
 (12) マセイ⁵⁸
 (13) レヴォン⁵⁹
 (14) ヤキム（ガヴリーロの息子）⁶⁰

を挙げるができる⁶¹。登場している人物の数は14人である。

この14人と、前述の名前の分かっている28人、特に、オスタシコヴァ・スロボダーの5人の関係を見てみると、イワン（レヴォンの息子）とグレゴリー・メシチェルスコイは、「オスタシコヴァ・スロボダーの農民」と付されているか、「オスタシコヴァ・スロボダーの人」と表現されているかの違いだけで、同一人物であると理解して問題はないであろう。

そして、グリゴリーと共に「スロボダーを代表して⁶²。」寄進を行っている(7)のズロバの息子サムハと(10)のダニロ・モシェンニコフや、(2)のイワンと共に「全スロボダーを代表して」寄進を行っている(13)のマクシム・バブハも、そのマクシム・バブハと共に「全スロボダーを代表して」寄進を行っている(6)のコフコも、そしてレヴォンと共に登場する(1)のアヴラーム・ミャフカヴォや(14)のマセイも、農民と考えて間違っていないであろう。

その他、農民と思われる事例として、

⁵⁷ 前述のコフコと共に、全村を代表して短い祈りのため0.5ルーブリを寄進したものである（Там же, С. 10）。また、イワン（レヴォンの息子）と共に、短い祈りのため全村を代表して1ルーブリと、自発的に12アルトゥインを寄進している（Там же, С. 101）。さらに、彼は、宣誓者として、オスタシコヴァ・スロボダー全村を代表して短い祈りのため1ルーブリを寄進している（Там же, С. 136）。

⁵⁸ アヴラームとレヴォンと共に、短い祈りのため25アルトゥインを寄進（Там же）。

⁵⁹ アヴラームとマセイと共に、短い祈りのため25アルトゥインを寄進（Там же）。

⁶⁰ 父ガヴリーロのため10ルーブリ（Там же, С. 23）。ヤキムの父ガヴリーロは、前述の農民ガヴリーロである可能性もあるように思われる。

⁶¹ なお、オスタシコヴァ・スロボダーの人々が、短い祈りのため5アルトゥイン、0.5ルーブリ（3回）、1グリヴナ、2グリヴナ、8アルトゥイン、10アルトゥインを、それぞれ寄進している（Там же, С. 91, 187, 196, 242, 243, 246）。

⁶² 「全スロボダーを代表して」という表現に注意を要するであろう。この点については、拙稿「16世紀後半のロシアの農村における社会的結合について—ヨシフ・ヴォロコラムスキー修道院領オスタシコヴァ・スロボダーの場合—」（『香川大学経済論叢』第76巻第1号、2003年5月、17-57ページ）において検討を加えている。オスタシコヴァ・スロボダー関係者については、この拙稿を参照して頂きたい。

- (1) ベルコフスカヤ・ヴォロスチのオクニノ部落出身のシャラブ・イワノフ⁶³
- (2) クジャエヴォ部落からミシカ⁶⁴
- (3) 修道士ソフラン（ズブツォフスカヤ・ヴォロスチのファウストヴァ・ゴラ村出身）⁶⁵

を挙げることができる。

結局、農民として登場している人物のうち、名前が判明するのは、43人ということになる。この43人のうち17人が、オスタシコヴァ・スロボダの居住者である。その17人のうち、2組（レヴォンとイワン、ズロバとサムハ）が親子関係である。

また、注意しなければならないと思われるのは、剃髪に際しての寄進である。43人のうち8人が、それに該当する。さらに、名前の判明しないラキツィンスカヤ・ヴォロスチの者も、剃髪に際しての寄進である⁶⁶。修道士の中には、修道院領内の農民出身の者が含まれていたということであり、このことは、農民が剃髪という形で修道院と深く関わっていたことを示唆しているように思われる。

彼ら農民と思われる人々の寄進内容については、それぞれの注に示した通りであるが、その内訳を見てみると、次のようになる。

単に農民とされている場合も含めて、全体で、同一人物（複数の人物が関わっている場合も含めて）が、同時に2つの寄進を行っている場合も含めて、65例あるが、そのうち短い祈りに関わるものが35例と過半数を占めている。次に、単なる寄進が23例（そのうち剃髪に際しての場合が10例である）、過去帳への記載のためという場合が5例、両親または父の魂の救済のためという場合が5例、過去帳への記載と記憶録への記載及び剃髪に際して衣服用という場合が1例ずつとなっている。いずれにせよ、魂の救済に関わるものが圧倒的である。

⁶³姉妹マリヤのため 0.5 ループリ（ВХКпрк, С. 106）。

⁶⁴0.5 ループリ（Там же, С. 198）。

⁶⁵3 ループリ（Там же, С. 2）。

⁶⁶ルザ郡ラキツィンスカヤ・ヴォロスチの者が、剃髪に際して、現金 3.5 ループリと 1.5 ループリ分の債務証書を寄進している（Там же, С. 201）。

金額の面では、前述のように、短い祈りに関しては、個人に限定した場合、一般的には少額で、1ルーブリが最高であり、個人に限定しない場合も、ルコヴニコフスカヤ・ヴォロスチ全体による5ルーブリが最高である。しかし、剃髪に際しての寄進については、かなり様相が異なっている。確かに、1ルーブリ～4.75ルーブリが6例と多いが、サヴァの場合には28ルーブリであり、セルゲイの場合は、合計53ルーブリである。また、両親または父親の魂の救済のために寄進された金額は、いずれの場合も6ルーブリ以上である。特にサムハの場合、父ズロバのために3回寄進しているが、その金額は10ルーブリ（これに22ルーブリ1グリヴナ相当の13樽のニシンを1575年12月26日付で寄進）、8ルーブリ（1576年3月12日付）、10ルーブリ（同年4月1日付）である。短期間のうちに、これだけの寄進を行うことが可能だったサムハの財力は無視できないと思われる⁶⁷。

寄進を行うことができる、というだけで、すでに経済的には余裕がある存在である可能性が高いが、寄進額の大きな差は、寄進を行うことができた農民の中にも、経済力に相当の格差が生じていたことを物語っていると思われる。

II-2 非農業者

非農業者としては、手工業者・漁師・炉焚き人などが登場している。具体的には、

- (1) 靴職人ニキトカ・オヌフレーエフ⁶⁸
- (2) 靴職人のグリゴリー（ルコヴニコヴォ村住民）⁶⁹
- (3) ろくろ師のフョードル（オスタシコヴァ・スロボダー住民）⁷⁰
- (4) バター製造職人フィリップ⁷¹

⁶⁷ 父ズロバも、サムハ本人も、スロボダーを代表して修道院に寄進を行った人物の一人であったことは、拙稿で言及した通りである（「16世紀後半のロシアの農村における社会的結合について—ヨシフ・ヴォロコラムスキー修道院領オスタシコヴァ・スロボダーの場合—」33, 34ページ）。

⁶⁸ アルトゥイン（ВХКпрк, С. 90）。

⁶⁹ 自己のために2ルーブリ1グリヴナ（Там же, С. 196）。

⁷⁰ 死者の追悼祈祷のため1グリヴナ（Там же, С. 94）。

⁷¹ 剃髪した際に、4ルーブリ26アルトゥイン4ジェーニガ（Там же, С. 142）。

- (5) 漁師ウスティン⁷²
- (6) 漁師クジマ（オルフェルの息子）⁷³
- (7) 漁師グリーシャ⁷⁴
- (8) クジモジェミヤンスコエ村の炉焚き人ルシンコ⁷⁵
- (9) ボブィリであるクゼムカ（イワンの息子）⁷⁶

の9人を挙げることができるだけである。

寄進者の職種が記録されなかった可能性もあるとはいえ、修道院における雇用労働力としての手工業者や炉焚き人、あるいは漁師などの存在が確認されているにもかかわらず、彼らの寄進例は、農民と比較すると、極めて少数である。当該修道院による雇用者の可能性を残しているのも、漁師グリーシャと靴職人のグリゴリーのみである。

同一人物であるかどうか判定しがたいが、この漁師グリーシャと関連して、オブロートチクの中に、漁師のグリーシャ（タラスの息子）が存在している⁷⁷。寄進者として登場しているグリーシャは、漁師コンドラーシのために寄進しているのであるが、コンドラーシは、1579年5月28日より前に、死を前にして剃髪しているようである。この日、彼の持ち物であったカフタンが売却され、8

⁷²短い祈りのため1グリヴナ（Там же, С. 92）。

⁷³短い祈りのため8ジェーニガ（Там же, С. 20）。上のウスティンと共に、漁師としたが、この2人は、寄進に際しての記載では、単に「オスタシコヴァの人」と記載されているだけで、「漁師」という肩書きは付されていない。が、両者とも、支出が記載されている個所で、魚を購入した人物として現れている。ウスティンからは、1575年12月20日付で荷車1台分のキュウリウオ1.5ルーブリ分、1581年12月には2.5樽のイクラ、10樽分のウスリーシロザケの肉、5樽分のスズキと5樽分のカワカマス、クジマからは、1574年3月3日に、荷車2台分の鮮魚（カワカマス、スズキ、ブリーム）（7ルーブリ）と干したキュウリウオ13こも（5ルーブリ92ジェーニガ）を購入している（Там же, С. 117, 223-224, 73）。

⁷⁴漁師コンドラーシのため0.25ルーブリ（Там же, С. 137）。

⁷⁵死者の追悼祈祷のため1グリヴナ（Там же, С. 103）。

⁷⁶自分の魂のため10ルーブリ（Там же, С. 7）。

⁷⁷1573年5月19日付、同年11月24日付、1575年12月29日付、1579年11月9日付、1581年10月1日付、1589年10月11日付、1590年9月4日付（Вотчинные хозяйственные книги XVI в. Книги денежных сборов и выплат Иосифо-Волоколамского монастыря 1573-1595 гг. Под редакцией доктора исторических наук А. Г. Манькова. М., Л., 1978. С. 195, 211, 218, 226, 261, 276）。

アルトゥインが入手されていることが、当該修道院の収入帳簿に記載されている⁷⁸。そして、同年6月13日に、グリーシャのこの寄進が行われたのである。

また、同じく漁師のウスティンとクジマについては、いずれも当該修道院が魚を購入している人物である。オスタシコヴァ・スロボダーがルジェフ郡という当該修道院からは比較的遠方に位置しているにもかかわらず、前述の農民についても比較的多くの者が寄進者として登場しているのは、この2人にも関係するが、セリゲル湖での漁撈が保証されていたことと無関係ではないように思われる。いずれにせよ、この2人については、魚の購入を通して関わりを持っていた人物であった点に注意が必要であるように思われる。

寄進の契機は、靴職人の1例を除いて、農民層の場合と同じく、魂の救済に関わるものである。そして、寄進額にはばらつきがあるが、全体としては少額である。ただ、靴職人のグレゴリーの2ルーブリ1グリヴナは、比較的高額であり、バター製造職人の、剃髪に際してとはいえ、4ルーブリ26アルトゥイン4ジェーニガも高額と言える。それよりも、ボブイリであるクゼムカの10ルーブリは極めて高額であり、ボブイリを貧しい、家もない住民という理解でよいのか、と問わざるを得なくなるように思われる。

II-3 司祭・堂務者など

どの村の司祭あるいは長司祭であるのかが明示されているのは、

- (1) トゥーロヴォ村の司祭イワン（キプリアンの息子）⁷⁹
- (2) ベルコヴォ村の司祭ワルラーム⁸⁰
- (3) ズブツォヴォ村の司祭ヴォロジューメル⁸¹
- (4) オスタシコヴァ・スロボダーの司祭フョードル⁸²

⁷⁸ВХКпрк, С. 137. なお、グリーシャについては、前述の拙稿「16世紀後半のロシアの農村における社会的結合について—ヨシフ・ヴォロコラムスキー修道院領オスタシコヴァ・スロボダーの場合—」を参照して頂きたい。

⁷⁹3ルーブリ（Там же, С. 190）。彼は、以前にも寄進を行っている。

⁸⁰両親のため30アルトゥイン（Там же, С. 197）。

⁸¹短い祈りのため1グリヴナ（Там же, С. 21）。

⁸²短い祈りのため3アルトゥイン（Там же, С. 8）。

- (5) オスタシコヴァ・スロボダーの司祭キプリアンの兄弟たち⁸³
- (6) ロトシノ村の司祭⁸⁴
- (7) マモシノ村の司祭ピョートル⁸⁵
- (8) ルコヴニコヴォ村の司祭レオンティー⁸⁶
- (9) ルコヴニコヴォ村の司祭ミハイル（レオンティーの息子）⁸⁷
- (10) スピロヴォ村の堂務者アサフ⁸⁸
- (11) オスタシコヴァ・スロボダーの堂務者ピャートイ⁸⁹

の 11 人で、そのうち、名前が明示されているのは 10 人である⁹⁰。

また、どの村の司祭であるのかは明示されていないが、司祭など聖職者であることがはっきりしている事例は、

- (1) 司祭ヴァシアン・ヘルノフ⁹¹
- (2) 司祭ワシーリ⁹²

⁸³短い祈りのため 0.5 ルーブリ (Там же, С. 197)。これは、司祭自身の寄進ではないが司祭とは無関係ではないので、挙げておきたい。

⁸⁴短い祈りのため 1 グリヴナ (Там же, С. 155-6)。ロトシノ村は、1540/41 年のグリゴリー・ジュコフーオブレチュエフの遺言状の中で言及されており、スパソ教会の存在が示唆されている (АФЗХ, Ч. 2, No. 157)。なお、この司祭は、ストウルマ・ヴェリョーフキンと共に寄進を行っている。ただ、動詞が単数形であることを考慮すると、同一人物である可能性もある。

⁸⁵7 人の名前を永代目録に記載するため 0.5 ルーブリ (ВХКпрк., С. 99)。

⁸⁶10 プード入りの桶に入った 5 ルーブリ相当の蜂蜜 (Там же, С. 15-16)。レオンティーは、後に長司祭として短い祈りのため 0.25 ルーブリを寄進したり (Там же, С. 191)、息子でルコヴニコヴォ村の司祭ミハイルと共に、修道士たちのコルムのため 40 アルトゥイン、糖蜜 1.5 プード、胡椒 1 グリヴンカを寄進している (Там же, С. 242)。

⁸⁷短い祈りのため 2 アルトゥイン (Там же, С. 152)。

⁸⁸12.5 ルーブリ (Там же, С. 201)。スピロヴォ村には、至聖生神女教会が存在していた (АФЗХ, Ч. 2, No. 359)。

⁸⁹全村を代表して短い祈りのため 8 アルトゥイン (ВХКпрк., С. 92)。

⁹⁰10 人のうちの 1 人であるキプリアンについては、寄進を行っているのは彼ではなく、兄弟であるが、ここに含めておいた。

⁹¹2 ルーブリ (Там же, С. 86)。

⁹²短い祈りのため 0.5 ルーブリと 0.25 ルーブリ (Там же, С. 12)。

- (3) 司祭ワルラーム⁹³
- (4) 司祭パフヌーティ⁹⁴
- (5) 長司祭セミョン⁹⁵
- (6) 俗人司祭グーレイ・ラブシン⁹⁶
- (7) 俗人輔祭のドミートリー⁹⁷
- (8) 輔祭レフキー⁹⁸
- (9) 堂務者セラピオン⁹⁹
- (10) 聖務執行者モイセイ・コルマク¹⁰⁰

の10例である。(3)のワルラームが前述のベルコヴォ村の司祭ワルラームと同一人物であるのかどうかは不明であるが、可能性を排除する必要はないように思われる。また、この10人が、修道院領内の教会に所属する聖職者であるのか否かは不明である。

当該修道院の場合、教会の存在を史料的に確認することができるのは30ヶ村で、前述の8ヶ村のうち、ズブツォヴォ村とロトシノ村以外の6ヶ村がそれに該当する¹⁰¹。また、ズブツォヴォ村やロトシノ村のように、司祭の存在によって

⁹³ 修道士ニフォント・ゴリシキンのクヴァスとコショウのため20アルトゥイン (Там же, С. 151, 152) と同修道士のクヴァスとイクラのため1.5ループリ (Там же, С. 154)。

⁹⁴ 遺産12ループリ (Там же, С. 19)。

⁹⁵ 剃髪とコルムのため5ループリと、別に50ループリ (Там же, С. 196, 203)。

⁹⁶ 3ループリ (Там же, С. 3)。

⁹⁷ 庵のため4ループリ (Там же, С. 203)。

⁹⁸ 5ループリと3ループリ (Там же, С. 93, 193)。

⁹⁹ 母を過去帳へ記載するため1ループリ (Там же, С. 193)。

¹⁰⁰ 10ループリ (Там же, С. 245)。

¹⁰¹ 拙稿「16世紀後半のロシアの農村における社会的結合について」『香川大学経済論叢』第76巻第1号、2003年、21ページを参照して頂きたい。なお、この表では、史料的に教会の存在が確認できるか否かについて、ノヴォシノ村には「無」とし、スピロヴォ村については表そのものに掲載していないので、30ヶ村ではなく28ヶ村となっている。また、司祭の存在によって、逆に教会の存在が確認できる村についても、ズブツォヴォ村には「無」とし、ロトシノ村には言及していないので、この2つを追加する必要がある。

教会の存在を確認できる6ヶ村を加えると、当該修道院領内の36ヶ村で教会の存在が確認できることになる。とすると、8つの教会関係者しか寄進者としては登場していないのは、少ないように思われる。

修道院領内の教会に所属する司祭と修道院との関わりがどのようなものであったのかを具体的に示している史料については不明であるが、無関係であったとは思われない。

Ⅲ

Ⅲ-1 在地領主、ジェチ・ボヤールスキエなど

修道院あるいは修道院領近郊の在地領主とその関係者も、寄進者として登場している。彼らは、何よりも、修道院への土地の寄進者であったが、土地以外の寄進を通じて修道院との関わりを持っていた。そのような家系あるいは人物として、次のような事例を挙げることができる。

(1) ウーソフ家

①ワシーリー（ワシーリーの息子）¹⁰²

(2) ウンコーフスキー家

①ワシーリー（イワンの息子）¹⁰³

②ナスタシーヤ（イワン・オメリンの妻）¹⁰⁴

(3) エピシェフ家

①イリヤ（修道士名エレメイ）¹⁰⁵

¹⁰²兄弟スピリドンのため5ルーブリ（ВХКпрк, С. 150）。フョードル・イワノヴィチ・スヴェルチコフの遺言執行人として登場している（АФЗХ, Ч. 2, No. 371）。

¹⁰³兄弟イワン・オメリンのため40ルーブリに相当するオリエントの純血乗用馬及び寸胴で襟のない室内用上着と、コルムのため5ルーブリ（Там же, С. 20-21）。なお、イワン・オメリヤは、ルザ郡シェプコヴォ郷に封地として6つの部落と2つの荒蕪地を持っていた（Русский уезд по писцовой книге 1567-1569 годов/ Составители С. Н. Кистерев, Л. А. Тимошина. М., 1997(Далее РУПК), С. 180）。

¹⁰⁴短い祈りのため1ルーブリ、死者の追悼祈祷のため0.5ルーブリ、過去帳への記載のため0.5ルーブリと両親への追悼祈祷のため1ルーブリ（ВХКпрк, С. 9, 143）。

¹⁰⁵1ルーブリ（Там же, С. 190）。ルザ郡内の証人としてイリヤ・エピシェフ（オレフィーの息

(4) エリチャニーノフ家

グリゴリー¹⁰⁶

(5) オクーロフ家

①アフナーシー（イグナーティーの息子）¹⁰⁷

(6) オフツィーン家

①ミハイル¹⁰⁸

ルザ郡ホヴァンスキー・スタンに、世襲領として母エフロシーニヤ、兄弟ピョートル、ワシーリー、イエフ、イワンと共に、1つの部落、1つのポゴスト、1つの荒蕪地をもっていた¹⁰⁹。

(7) アンドローノフ家

①フョードル¹¹⁰

(8) グラーゾフ家

①ニキータ（コンスタンチン・アガルコフの息子）¹¹¹

(9) コブィーリン家

①イワンとワシーリー¹¹²

子)が登場している (АФЗХ, Ч. 2, № 346)。また、ルザ郡スキルマノフスキー・スタンに封地として3つの部落を持つイリヤ・エピシェフ（アルチェミーの息子）が存在していた (РУПК, С. 132, 133)。

¹⁰⁶短い祈りのため10ジェーニガと1グリヴナ、両親の追悼祈禱のため5アルトゥイン (ВХКпрк, С. 5, 101, 146)。

¹⁰⁷ベジェツキーの人で、スィン・ボヤールスコイである。5ルーブリを寄進 (Там же, С. 203)。

¹⁰⁸短い祈りのため5アルトゥイン、ヴァジマで8.5ルーブリ相当の穀物 (ライ麦40チェトヴェルチと燕麦60チェトヴェルチ) (Там же, С. 92, 98)。後者は売却されている。

¹⁰⁹РУПК, С. 64。

¹¹⁰兄弟ミハイルとピョートル、彼らの父イワンの所領管理人フョードル・モロースとミハイル・コベコフと共に、父イワンの魂の永代供養のため50ルーブリ (ВХКпрк, С. 191)。

¹¹¹ジェチ・ボヤールスキエで、自己の魂の救済のために以前の5ルーブリに5ルーブリを加えて寄進 (Там же, С. 241)。

¹¹²兄弟で、短い祈りのため0.25ルーブリ、死者の追悼祈禱のため1グリヴナを寄進 (Там же, С. 96)。

(10) ゴロヴレーンコフ家

①イワン（・ワシーリエヴィチ）¹¹³

(11) ゴルィシキーン

①シェスタク¹¹⁴

(12) ジャージン家

ワシーリー¹¹⁵

(13) ストゥピシン家

ストゥピシン家は、シェストリンスキー・スタンの領主の家系である¹¹⁶。

①グーリー（ボリソフの息子）¹¹⁷彼は、後に修道士となっている¹¹⁸②セメン（ワシーリーの息子）¹¹⁹

当該修道院は、ロクヌィシスキー・スタン所在のナチャピノ村と付属する部落を、セメンを含むワシーリー・ストゥピシンの息子たち（セメンのほか、ミハイル、イワン、ダニール、ピョートル）から購入している¹²⁰。

③サヴィン¹²¹

¹¹³両親のため 0.5 ルーブリ、5 年もののライ麦など 54 束、息子のため 20 ルーブリ、用人に代わって 10 ルーブリ（Там же, С. 21, 22, 203）。

¹¹⁴短い祈りのための 1 グリヴナと安息香 10 グリビョンカ（Там же, С. 92）。

¹¹⁵①ワシーリーのコルムのため 3 ルーブリと、娘婿グリゴリー・ポーレフの追悼祈祷のため 1 ルーブリ（Там же, С. 93）。②娘で、グリゴリー・ヨシフォヴィチ・ポーレフの妻であるカテリナのため 20 ルーブリ（Там же, С. 199）。

¹¹⁶Чернов С. З. Указ. соч. С. 135-140, 460.

¹¹⁷兄弟アンドレイの追悼祈祷のため 1 グリヴナ（ВХКпрк, С.2）。両親のため 15 ルーブリとクヴァスのため 0.5 ルーブリ（Там же, С. 89, 96-7）。

¹¹⁸АФЗХ, Ч. 2, № 408, 417. 彼の弟子に修道士ラヴレンティが存在する。

¹¹⁹短い祈りのため 1 グリヴナと 2 グリヴナを 2 回ずつ（ВХКпрк, С. 11, 98, 144, 184）。また、後述のレオンティー・トルブジンと共に短い祈りのため 10 アルトゥインを寄進している（Там же, С. 142-3）。なお、当該修道院は、1573 年 11 月 19 日付で、セメン・ストゥピシンから 3 ルーブリで林を購入している（Там же, С. 53）。

¹²⁰АФЗХ, Ч. 2, № 302.

¹²¹短い祈りのため 2 グリヴナを 2 回と 1 グリヴナを 1 回、クヴァスのため 0.5 ルーブリ（ВХКпрк, С. 89, 145, 196）。ボリスの息子だろうか。ボリスの息子サヴィン・ストゥピシンは、1556/57 年の寄進状で、ルザ郡シェストリンスキー・スタンにある新開地ドロク・チェリャエフと荒蕪地トゥリシチェヴォを当該修道院に寄進している（АФЗХ, Ч. 2, №№ 320, 347）。この寄進後も、隣接するヤルツェヴォ村を世襲地として領有していた（Там же, №№ 322, 330; РУПК, С. 199, 215）。

(14) ストレモウーホフ家

①レオンティー¹²²。

(15) セルーコフ家

①トレチャーク¹²³

(16) ソコローフ家

①フョードル（フィリップの息子）¹²⁴

(17) ダヴィードフーメンチャコフ家

①アレクセイ（グリゴリーの息子）¹²⁵

ルザ郡スキルマノフスキー・スタンに、封地として荒蕪地アガフィドヴァとロジオノヴォを、同スタンに、世襲領として、兄弟フョードル、ニキフォルと共同でマルコヴォ村（持ち分3分の1）と同村に付属する3部落及び3新開地を持っていた¹²⁶。

②エフロシニヤ（フョードル・グリゴリエヴィチ・ダヴィードフ¹²⁷の妻）¹²⁸③ニキフォル・グリゴリエヴィチ¹²⁹

1546/1547年に、グリゴリー・ダヴィドフの妻マリヤが、息子アレクセイ、フョードル、ニキフォルと共に、ルザ郡スキルマノフスキー・スタン所在の世襲領コピロヴォ部落（ロジェストヴェンスコエ村所属）を寄進してい

¹²²短い祈りのため1グリヴナ（ВХКпрк, С. 91）。ヴォロク郡内の領主として、チモフェイ・ストレウモフ（グリゴリーの息子）が登場している（АФЗХ, Ч. 2, No.No. 105, 232, 302）。No. 105によると、チモフェイは、1527/1528年に、ヴォロク郡ヴォルニャニコフスキー・スタン所在のタラセンコヴォ部落を当該修道院に寄進している。

¹²³シン・ボヤールスキーで、短い祈りのため1グリヴナ（ВХКпрк, С. 91）。

¹²⁴32ルーブリ19アルトゥイン（Там же, С. 102）。ルザ郡内の証人として登場している（АФЗХ, Ч. 2, No. 335）。

¹²⁵短い祈りのため0.25ルーブリ（ВХКпрк, С. 144）。

¹²⁶РУПК, С. 141, 142.

¹²⁷1567年～1569年に、ロクヌィシスキー・スタン所在の部落エレゾヴォ、ボルィビノ、ミシニェヴォの領主として登場している（АФЗХ, Ч. 2, No.No. 193, 302, 347, 365）。また、前述のマルコヴォ村の持ち分と6部落及び2つの新開地、さらにロクヌィシスキー・スタンに3つの部落を世襲領として持っていた（РУПК, С. 202）。

¹²⁸イワン・タチーシチェフの息子ピョートルの両親を毎日の祈禱書に記載するため3ルーブリと、軍服・甲冑など（ВХКпрк, С. 24）。エフロシニヤは、アレクサンドル・セメノヴィチ・クトゥゾフの娘である（АФЗХ, Ч. 2, С. 513）。

¹²⁹短い祈りのため2グリヴナ（ВХКпрк, С. 200）。

る¹³⁰。また、前述のマルコヴォ村の持ち分と2つの部落及び3つの新開地を世襲領として持っていた¹³¹。

(18) タールホフ家

①イワン（フョードルの息子）¹³²

ヴォロク郡内の証人として登場しているイワン・タールホフ（フョードルの息子）が存在する¹³³。

②フョードル（マトヴェイの息子）¹³⁴

(19) チトーフ家

①ピョートル（アフナーシーの息子）¹³⁵

②モイセイ¹³⁶

(20) チェレミーシノフ家

①イワン・セメノヴィチ¹³⁷

②デメンシャ¹³⁸

(21) ドゥバーソフ家

①アンドレイ（イワンの息子）¹³⁹

②フョードル（イワンの息子）¹⁴⁰

③ワシーリー¹⁴¹

¹³⁰ АФЗХ, Ч. 2, № 193.

¹³¹ РУПК, С. 141-143.

¹³² ワシーリー・ウンコーフスキーの追悼のため 15 ルーブリ (ВХКпрк, С. 241-2)。

¹³³ АФЗХ, Ч. 2, №№ 298, 333, 343, 355, 394, 429.

¹³⁴ 短い祈りのため 1 グリヴナを 5 回とワシーリー・ウンコーフスキーの永代供養のため 10 ルーブリ (ВХКпрк, С. 12, 17, 87, 145, 194, 240)。

¹³⁵ スィン・ボヤールスキーで、25 ルーブリ (Там же, С. 203-4)。

¹³⁶ 過去帳に記載するため 0.5 ルーブリ (Там же, С. 200)。

¹³⁷ 50 ルーブリ、彼が存命中は彼の健康を祈り、彼の死後は永久に名前を記録に残すこと (Там же, С. 7)。

¹³⁸ 修道士 120 人に 3 ジェーニガずつ (計 1 ルーブリ 8 グリヴナ) (Там же, С. 136)。

¹³⁹ 兄弟ジェメンチェイのため馬 (Там же, С. 89)。

¹⁴⁰ 10 ルーブリ (Там же, С. 136)。

¹⁴¹ おじフョードルと共に、10 ルーブリを寄進している (Там же, С. 194)。

(22) トルブージン家

トルブージン家は、シェストリンスキー・スタンの領主であった¹⁴²。

①セメン（・イワノヴィチ）¹⁴³

ルザ郡ロクヌィシスキー・スタンのイリンスコエ村と3つの部落を世襲領として持っていた¹⁴⁴。

②イワン（セメンの息子）¹⁴⁵

フェオドシー・ビービコフの遺言執行人の一人として登場している¹⁴⁶。

③ゲーリー（ピョートルの息子）¹⁴⁷④レオンティー（イワンの息子）¹⁴⁸

ルザ郡シェストリンスキー・スタンのレリャヴィノ小村及び同村に付属する4部落を世襲領として持っていた¹⁴⁹。セメンと兄弟である。

(23) ナシヨーキン家

①イワン¹⁵⁰

(24) パンチェレーエフ家

①フォードル（ワシーリーの息子）¹⁵¹

(25) ビービコフ家

①修道士イェリセイ¹⁵²

¹⁴² Чернов С. З., Указ. соч., С. 16, 140, 151-159, 160, 163, 169, 172.

¹⁴³ 短い祈りのため1グリヴナ (ВХКпрк, С. 11)。なお, АФЗХ, Ч. 2, No.No. 235, 236, 292, 298, 305, 320, 321, 327, 333, 336, 348, 393 を参照されたい。

¹⁴⁴ РУПК, С. 201, 202.

¹⁴⁵ 短い祈りのため1グリヴナ (ВХКпрк, С. 141)。

¹⁴⁶ АФЗХ, Ч. 2, No. 429.

¹⁴⁷ 短い祈りと死者の追悼祈禱のため2グリヴナ (ВХКпрк, С. 143)。

¹⁴⁸ 短い祈りのため1グリヴナを4回と2アルトゥインを1回, 死者の追悼祈禱のため5アルトゥイン (Там же, С. 2-3, 11, 11-12, 91, 139, 141)。また, セメン・トルブージンと共に短い祈りのため10アルトゥイン (Там же, С. 142-3)。なお, 証人として登場している (АФЗХ, Ч.2, No. No. 142, 235, 236, 281, 288, 292, 293, 297, 298, 305, 321, 327, 329, 336, 363-365, 373, 376)。

¹⁴⁹ РУПК, С. 201, 212.

¹⁵⁰ 短い祈りのため0.25ルーブリ (ВХКпрк, С. 238)。

¹⁵¹ 短い祈りのため2グリヴナ (Там же, С. 141)。ルザ郡内の証人として登場している (АФЗХ, Ч. 2, No. 429)。

¹⁵² 短い祈りのため1グリヴナ (ВХКпрк, С. 17)。

俗名はエリザルで、ワシーリー・ダヴィードフの息子。1579/1580年に作成した遺言状の中で、イズジェチェムリスキー・スタン所在の世襲領ドロエ村その他の処理を指示している¹⁵³。

(26) プーシキン家

①イワン・イリイチ¹⁵⁴

ルザ郡ヴォイニチ郷に3.5部落を封地として持っていた¹⁵⁵。

②アスタフィー・ミハイロヴィチ¹⁵⁶

(27) プシェチニコフ

①シーラ¹⁵⁷

(28) プズィリョーフ

①ワルラーム・¹⁵⁸

(29) ベゾブラーゾフ家

①アンドレイ¹⁵⁹

②ニキフォル¹⁶⁰

③ウラジーミル・マトヴェエヴィチ（修道士名ヴェネディクト）¹⁶¹

ソフィイノ村と同村に付属する3部落に対する請求権を放棄する文書を残している¹⁶²。

¹⁵³ АФЗХ, Ч. 2, № 370.

¹⁵⁴ ヴァジマで、9ルーブリ 12アルトゥインで売却されたライ麦 23 チェトヴェルチ、えん麦 66 チェトヴェルチ、ソバ 54 チェトヴェルチと、6ルーブリ (ВХКпрк, С. 105)。

¹⁵⁵ РУПК, С. 154.

¹⁵⁶ 100ルーブリ (ВХКпрк, С. 203)。ドミトロフ郡内で証人となっている (АФЗХ, Ч.2, № 362)。

¹⁵⁷ 短い祈りのため 2 グリヴナ (Там же, С. 243)。

¹⁵⁸ 2ルーブリ (ВХКпрк, С. 203)。領主で、スィンボヤールスキー (АФЗХ, Ч. 2, С.554 を参照)。

¹⁵⁹ 短い祈りのため 1 アルトゥイン (Там же, С. 106)。

¹⁶⁰ 短い祈りのため 1 グリヴナ (Там же, С. 137)。

¹⁶¹ 永代供養のため 12ルーブリ 4アルトゥイン相当のライ麦 101 チェーチと、37ルーブリ 30アルトゥイン (Там же, С. 190)。

¹⁶² АФЗХ, Ч. 2, № 237.

(30) ポクロフスキー家

①イワンと兄弟たち（アルセニーの息子たち）¹⁶³

(31) ポーレフ家

①ボグダン・イワノヴィチ¹⁶⁴②オクシーニヤ・ポーレヴァ（ミハイル・ヤコヴリチの妻であり、イワン・（ヨシフォヴィチ・）ポーレフの娘）¹⁶⁵

(32) ミジュエフ家

ヴォロク郡スタロヴォロツキー・スタンの領主で、15世紀末から16世紀前半にかけて、同スタンの中央部に所領を持っていた¹⁶⁶。①ワシーリー¹⁶⁷彼は、後に剃髪して修道士となり、修道士名ヴァシアンとなった。彼の息子達（クレメンティ、アルフェリー、ニキフォル）は、1529/1530年に、当該修道院に対して世襲領である大・小のドゥプロフカ部落を寄進している¹⁶⁸。

(33) メチョーフ家

メチョーフ家は、ヴォロク郡シェストリンスキー・スタンの領主であった¹⁶⁹。①修道士イエフ（俗名はイワン・ワシーリエヴィチ）¹⁷⁰②チモフェイ（タラスの息子）¹⁷¹

1551/1552年に、チモフェイは、兄弟のイワン、ミハイル、グリゴリーそ

¹⁶³ ろうそく及び葬式のため4アルトゥイン（ВХКпрк, С. 100）。

¹⁶⁴ 短い祈りのため1グリヴナ、父イワン・イワノヴィチのコルムのため5ルーブリと死者の追悼祈禱のため1ルーブリ、父イワンの永代供養のために50ルーブリ（Там же, С. 12, 92, 97）。

¹⁶⁵ ①親のコルムと短い祈りのため5ルーブリ、追悼祈禱のため0.5ルーブリ、両親の名を経案の過去帳に記すため1.75ルーブリ（Там же, С. 14-15）、②父イワンのコルムのために5ルーブリ、短い祈りのため0.25ルーブリ、死者の追悼祈禱のため10アルトゥイン（Там же, С. 93）、③短い祈りと死者の追悼祈禱のため0.5ルーブリ（Там же, С. 102）。

¹⁶⁶ Чернов С. З. Указ. соч. С. 78, 82, табл. 2 на С. 90, 89-99, 110, 182, 306, 314, 316.

¹⁶⁷ 短い祈りのため1グリヴナ（ВХКпрк, С. 24）。

¹⁶⁸ АФЗХ, Ч. 2, No. 113, 232. ただ、1529年の時点で3人の息子が存在し、寄進を行っているのが1574年4月28日であることを考慮すると、修道士ヴァシアンと寄進者ワシーリーが同一人物であるのかどうかについては検討が必要であるように思われる。

¹⁶⁹ Чернов С. З. Указ. соч. С. 151, 157, 188, табл. 13 на С. 189, 314-316, 319, 320, 444.

¹⁷⁰ 自己のコルムのため10ルーブリ（ВХКпрк, С. 193）。

¹⁷¹ 息子フォードルのため1グリヴナ（Там же, С. 100-101）。

して、ワシーリー・メチョーフの息子イワン及びグリゴリーと共に、世襲領の分配を行っている¹⁷²。

③修道士マカーリー（タラスの息子で、俗名はミハイル）¹⁷³

マカーリーと彼の兄弟グリゴリーは、1577/1578年に、当該修道院に対して、ヴォロク郡シェストリンスキー・スタン内の世襲領である荒蕪地フェフィロヴォを寄進している¹⁷⁴。

(34) モーリン家

①ズロバ（セメンの息子）¹⁷⁵

ルザ郡ルニャニコフ・スタンに彼と兄弟グリゴリー、彼らの甥たち（リュエミンの息子フォードルとニキフォル）の世襲領である部落及び新開地が存在していた¹⁷⁶。

②ナザリー・グリゴリエヴィチ¹⁷⁷

③修道士ニキフォル¹⁷⁸

ニキフォルは、1589/1590年に、当該修道院にヴォロク郡ヴォルニャニコフ・スタンの世襲領ソフトヴォ村、同村にある金曜教会、そして同村に所属する荒蕪地ウトゥキノを寄進している。同村は彼の兄弟イワンから、荒蕪地ウトゥキノは彼の姉妹マルファの持参金であったが、それを彼女から、それぞれ購入したものであった¹⁷⁹。

¹⁷² АФЗХ, Ч. 2, No. 235. また、1566/67年に兄弟グリゴリーが世襲領（ヴォロク郡シェストリンスキー・スタンの1つの部落、1つの荒蕪地及び草地）を当該修道院に寄進した際に、証人となっている（Там же, No. 319）。

¹⁷³ ① ヴォロク公イワン・ボリソヴィチとフォードル・ボリソヴィチのため17.5ループリ（ВХКпрк, С. 100）。② 6ループリ相当の去勢馬（ВХКпрк, С. 99）。なお, АФЗХ, Ч. 2, No. No. 235, 330を参照。

¹⁷⁴ АФЗХ, Ч. 2, No. 366.

¹⁷⁵ 短い祈りと追悼祈祷のため0.5ループリ（ВХКпрк, С. 8）。証人となっている（АФЗХ, Ч. 2, No. No. 252, 263, 357, 433）。

¹⁷⁶ РУПК, С. 68, 69.

¹⁷⁷ 短い祈りのため1グリヴナ（ВХКпрк, С. 17）。

¹⁷⁸ 修道士ニフォントのコルムのため1.5ループリ（Там же, С. 150）。

¹⁷⁹ АФЗХ, Ч. 2, No. 386. 1591年5月14日付の皇帝フォードル・イワノヴィチの指示状によると、ソフトヴォ村はニキフォルと彼の甥グリゴリー・モーリン（イグナーティーの息子）の世襲領であったと主張する当該修道院及びニキフォルらに対して、封土であると主張するボグダン・フヌコフ（ワシーリーの息子）との係争に、皇帝フォードルは、前者の主張を認めている（Там же, No. 390）。また、1593年8月27日付で遺言状を残している（Там же, No. 393）。

(35) ヤズィコーフ家

①クルバート¹⁸⁰

(36) ルジェフスキー家

シェストリンスキー・スタン, ラホフ・スタン, その他のスタンの領主である¹⁸¹。①エリザリー・イワノヴィチ・ルジェフスキー¹⁸²②エリザリー・イワノヴィチ・ルジェフスキーの妻¹⁸³③マトヴェイ・ルジェフスキー (ニキータ・ミハイロヴィチの息子) ¹⁸⁴

(37) ワイエイコフ家

①オボイム・ワシーリーエヴィチ・ワイェイコフ¹⁸⁵(38) コスチャンチン (フョードルの息子) ¹⁸⁶(39) フョードル¹⁸⁷

このような 37 家系と 2 人の人物を取り出すことができると思われるが、より詳細な検討を行うことによって、これよりも多くの家系あるいは人物をこの範疇に含めることも、あるいは逆に、他の範疇に移すこともありえるであろう。

次に、寄進額を見ると、当然のことではあるが、ワシーリー・ウンコフスキー、フョードル・オンドロノフ、イワン・ゴロヴレンコフ、フョードル・ソコロフ、ピョートル・チトーフ、イワン・セメノヴィチ・チェレミシノフ、イワン・イリ

¹⁸⁰短い祈りのため 1 グリヴナ (ВХКпрк, С. 16)。

¹⁸¹Чернов С. З. Указ. соч. С. 16, 109, 128, 138, табл. на С. 141, 140-151, 155, 157, 158, 160, 170, 172, 181, 190, 194, 303-305, 310, 320, 452-455.

¹⁸²短い祈りと死者への追悼祈祷のため 1 ルーブリとコラムとして 5 ルーブリ, またコラムのため 5 ルーブリ (ВХКпрк, С. 99, 184)。ヴォロク系のシン・ボヤールスキーで領主, そしてコゼリスクの書記である (АФЗХ, Ч. 2, No.No. 212, 321, 376, 388, 400, 418, 419, 423; Чернов С. З. Указ. соч, С. 453)。

¹⁸³死者の追悼祈祷のため 8 アルトゥイン (ВХКпрк, С. 195)。

¹⁸⁴エリザルの息子ピョートル・ルジェフスキーの埋葬と記憶録への記載のため 5 ルーブリ (Там же, С. 240)。

¹⁸⁵兄弟マトヴェイ・ワシーリエヴィチの供養に 50 ルーブリ (Там же, С. 189)。

¹⁸⁶ノヴゴロドの人で, シン・ボヤールスコイである。短い祈りのため 1 グリヴナを寄進 (Там же, С. 141)。

¹⁸⁷シン・ボヤールスキーで, 短い祈りのため 1 グリヴナ (ВХКпрк, С. 92)。

イチ・プーシキン, オスタフィー・ミハイロヴィチ・プーシキン, ウラジーミル・マトヴェエヴィチ・ベゾブラゾフ, ボグダン・イワノヴィチ・ポーレフ, ワイェイコフに典型的なように, 農民のそれと比較して, 相当高額である。

また, 名前は挙げられていないが, ジェチ・ボヤールスキエあるいはスィン・ボヤールスコイが, 短い祈りのために, それぞれ3アルトゥイン, 1グリヴナを寄進している¹⁸⁸。

なお, ヴォロク郡シェストリンスキー・スタン内に存在する当該修道院は, ヴォロク郡と近接するルザ郡など, 近隣の領主たちによる寄進によって所領を形成しており, 彼らの家系から修道士を輩出していることも, 寄進を通して伺うことができる¹⁸⁹。史料的に制約があるとはいえ, もう少し詳細に検討することによって, 修道士と近隣の領主層との関係を明確にすることができるように思われる。

Ⅲ-2 書記など

書記であるとか, 公的な役割を担っていた人物として次のような事例を挙げることができる¹⁹⁰。

- (1) ワシーリー・イワシェフ (アンドレイの息子) ¹⁹¹
- (2) バセノク・ヴェレシャーギン¹⁹²

¹⁸⁸ Там же, С. 12, 13.

¹⁸⁹ 当該修道院の修道士, 修道院長が当該修道院周辺の在地領主, スィン・ボヤールスキーから輩出されていることについては, すでにチホミーロフやジミーンが指摘している (Тихомиров М. Н. Россия в XVI столетии. М., 1962, С. 126; Зимин А.А. Указ.соч., С. 153-165)。ジミーンの場合には, 農民, 手工業者, 従僕なども, 稀にはあるが修道院長, 修道士となることがあったことも指摘している (Зимин А.А. Указ.соч., С. 163)。

¹⁹⁰ ここで, 書記とした人物は, 主として収支帳の中で明確に書記として記載されている場合であるが, 人名辞典などで役職に就いていたことが確認できる人物も, ここに含めることとした。

¹⁹¹ ヤロ波尔チ村出身で大公のプリカースチク。両親の追悼祈祷のため10アルトゥイン, 短い祈りのため1グリヴナを4回 (ВХКпрк, С. 5, 12, 20, 22)。書記であった (Веселовский С. В. Дьяки и подьячие XV-XVII вв. М., 1975, С. 214; АФЗХ, Ч. 2, № 400)。

¹⁹² 宮廷書記で, 短い祈りのため4.5ルーブリ (ВХКпрк, С. 148)。1577年10月, 宮内庁の書記, 1581年12月26日, 大ノヴゴロドの書記で, エレッスキー公と共に, スウェーデン使節との会議に臨席していた (Веселовский С. В. Указ. соч., С. 91)。

(3) ニキフォール・カリニコフ¹⁹³

(4) シチェルカロフ家

①アンドレイ・ヤコヴリチ・シチェルカロフ¹⁹⁴

彼の生年は不明で、没年は1597年。貴族会議の書記、外交官で、いくつかの官署の長を務めたが、1570年から外務院長を務めた。1594年に職を退き、剃髪して修道士となっている¹⁹⁵。

②ワシーリー・ヤコヴリチ・シチェルカロフ¹⁹⁶

皇帝フョードルの外交書記官などを勤めた¹⁹⁷。

(5) イワン・シドロフ¹⁹⁸

(6) スタフェーヤ¹⁹⁹

(7) スルメン²⁰⁰

(8) アファナーシー・(イグナーティエヴィチ・) デミヤノフ²⁰¹

(9) ワシーリー・ナルィシキン²⁰²

¹⁹³書記で、短い祈りのため1グリヴナ (ВХКпрк, С. 17)。

¹⁹⁴短い祈りのため5アルトゥイン、修道士たちのため1ルーブリ、短い祈りと死者の追悼祈祷のため2グリヴナ、20ルーブリ、短い祈りのため0.5ルーブリ、コルムのため5ルーブリ及び短い祈りと死者の追悼祈祷のため4グリヴナ (Там же, С. 10, 86, 98, 101, 134, 191)。

¹⁹⁵*Ерена Грушко, Юрий Медведев, Словарь фамилии, Нижний Новгород, 1997, С. 481.*

¹⁹⁶10ルーブリと金 (ВХКпрк, С. 101-102)。アンドレイとワシーリーは2人で、コルムのため7ルーブリ、短い祈りのため27アルトゥイン4ジェーニガ、聖歌隊と病院のため1ルーブリを寄進している (Там же, С. 101)。しかし、彼は、トロイツェ・セルギエフ修道院に、所領を含めて、多くを寄進しているようである (*Веселовский С. Б. Указ. соч., С. 588*)。

¹⁹⁷АФЗХ, Ч. 2, № 25.

¹⁹⁸ルジェフ市の管理人で、同僚のメンシク・ボショフと共に、短い祈りのため2グリヴナを寄進している (ВХКпрк, С. 105)。

¹⁹⁹書記で、短い祈りのため5アルトゥイン (Там же, С. 102)。

²⁰⁰大公の書記で、プスコフにやってきて、短い祈りのため7アルトゥイン2ジェーニガ (Там же, С. 157)。

²⁰¹書記で、短い祈りのため1グリヴナ (Там же, С. 191)。 *Веселовский С. В. Указ. соч., С. 147, 148* を参照。

²⁰²課税台帳管理人で、書記と共に、短い祈りのため2アルトゥイン4ジェーニガを (ВХКпрк, С. 8)、また、個人的に短い祈りのため1グリヴナを (Там же, С. 17)、寄進している。

(10) メンシク・ボショフ²⁰³

(11) アファナーシー（ワシーリー・マザロフの息子）²⁰⁴

12人（うち2人は共同で）しか確認することができない。書記などと当該修道院との関わりは強くなかったことが反映されているのだろうか²⁰⁵。そして、シチェルカロフ家の2人を除くと、寄進額は高くもないし少なくもない。

Ⅲ-3 従僕など

(1) 大公の射手たち²⁰⁶

(2) 大公のテント管理人であるクジマ（トレチャーク・イサコフの息子）²⁰⁷

(3) 大公の鐘管理人であるマクシム・トルビツィン²⁰⁸

(4) 大公の馬係ムラート・ラコフスキーと仲間たち²⁰⁹

(5) 大公の馬係²¹⁰

(6) 用人アンドレイ・モホフ²¹¹

(7) エカチェリーナ（マリユータ・スクラートフーベリスキーの娘であろう）の従僕クルバート²¹²

²⁰³ルジェフ市の管理人で、同僚のイワン・シドロフと共に、短い祈りのため2グリヴナを寄進している（Там же, С. 105）。

²⁰⁴書記で、修道士グーリー・ストゥピシンと共に、死者の追悼祈祷のため0.25ルーブリ、ろうそくのため1アルトゥインを寄進している（Там же, С. 103）。

²⁰⁵なお、名前は挙げられていないが、橋梁通過税徴収官が、短い祈りのために、2アルトゥインを寄進している（Там же, С. 8）。

²⁰⁶モスクワからスタリツァにやってきて、短い祈りのため10アルトゥイン4ジェーニガ（Там же, С. 157）。

²⁰⁷短い祈りのために1グリヴナを3回（Там же, С. 86, 88）。

²⁰⁸短い祈りのため0.25ルーブリ（Там же, С. 103）。

²⁰⁹短い祈りのため0.25ルーブリ（Там же, С. 201）。

²¹⁰短い祈りのため1グリヴナ（Там же, С. 197）。

²¹¹剃髪に際して、現金8ルーブリと不用となった6ルーブリ6アルトゥイン相当の衣服（Там же, С. 200）。彼は以前に馬を寄進している。

²¹²死者の追悼祈祷のため10アルトゥイン（Там же, С. 194）。

- (8) マリュータ・スクラートフ（ベリスキー）の用人ゲラシム・ウスキー（ワシーリーの息子）²¹³
- (9) マリュータの妻マリヤの世話係達²¹⁴
- (10) アファナーシー・ベリスキーの用人シシエルと仲間たち²¹⁵
- (11) ボグダン・ヤコヴリチ・ベリスキーの従僕アファナーシー・イワノフ²¹⁶
- (12) ボグダン・ヤコヴリチ・ベリスキーの用人アレクセイ・シチュレポフ²¹⁷
- (13) ボグダン・ヤコヴリチ・ベリスキーの従僕イワン・パーシン（グリゴリーの息子）²¹⁸
- (14) イワン²¹⁹
- (15) 用人シェヴリーガ・ワシーリエフ²²⁰
- (16) 用人シャラブ・プロボエフスコイ²²¹
- (17) グリゴリー・エラプキン²²²の用人ピョートル²²³
- (18) アファナーシー・ナゴイの従僕たち²²⁴
- (19) ネスチェル（イワン・プリンニクの息子で従僕）²²⁵

²¹³10 ルーブリ（Там же, С. 196）。

²¹⁴短い祈りのため 16 ジェーニガ（Там же, С. 19）。

²¹⁵短い祈りのため 4 アルトゥイン（Там же, С. 152）。

²¹⁶50 ルーブリ（Там же, С. 136）。

²¹⁷短い祈りのため 1 グリヴナを寄進している（Там же, С. 199）。また、同じく用人であるイワンと共に、短い祈りのため 2 グリヴナを寄進している（Там же, С. 201）。

²¹⁸18 ルーブリと 12 ルーブリ相当の馬（Там же, С. 201）。

²¹⁹アレクセイ・シチュレポフと共に、短い祈りのため 2 グリヴナを寄進している（Там же）。

²²⁰死者の追悼祈祷のため 4 アルトゥイン（Там же, С. 196）。

²²¹短い祈りと死者の追悼祈祷のため 2 グリヴナ（Там же, С. 100）。

²²²彼は、ウラジーミル・アンドレーエヴィチ公の土地測量人であった（АФЗХ, Ч. 2, № 312）。

²²³両親を過去帳へ記載することを願って、1 ルーブリ（ВХКпрк, С. 241）。

²²⁴短い祈りのため 2 アルトゥイン（Там же, С. 199）。

²²⁵両親のため 3 ルーブリ（Там же, С. 135）。

- (20) イワン・ポーレフの娘オクシーニヤの世話係ポラゲーヤ²²⁶
- (21) ベジェツキーの人でポロツクの射手フョードル（カルプの息子）²²⁷
- (22) ヴォログダ大主教の家令²²⁸

の22例を挙げるができる。ここに挙げた従僕や世話系の女性などは、大部分が、後述の大公や公、貴族、聖職者に仕える人々である。

短い祈りのための寄進が7例、死者の追悼記棟のための寄進は2例、これらがセットになったものが1例、そして、両親を過去帳へ記載するための1例が1ルーブリと比較的高くなっているとはいえ、前者については、いずれも額は多くない。

これと対照的なのが、剃髪に際しての1例（アンドレイ・モホフ）、射手フョードル、マリュータ・スクラトフの用人（ゲラシム・ウスキー）、そしてボグダン・ヤコヴリチ・ベリスキーの従僕（アフナーシー・イワノフとイワン・パーシン）の2例の計5例である。特に、アフナーシー・イワノフの場合は、50ルーブリと群を抜いている。また、剃髪に際してのアンドレイ・モホフの寄進額も、これまでに言及した事例と比べても、大きいものである。これは、剃髪に際して、全財産を処分し、寄進しているということを示唆しているのであろうか。

IV

IV-1 大公・公・貴族など

大公・公・貴族としては、次のような事例を挙げるができる。

(1) イワン4世

①喜捨として13ルーブリ、庵のため200ルーブリ²²⁹

②ヴォロク諸公のために17.5ルーブリ²³⁰

²²⁶短い祈りのため1グリヴナ（Там же, С. 15）。

²²⁷5ルーブリを2回（Там же, С. 242, 246）。

²²⁸短い祈りのため1グリヴナ（Там же, С. 101）。

²²⁹Там же, С. 10.

²³⁰Там же, С. 19.

- ③短い祈りため1ルーブリ、バターのため100ルーブリ、喜捨として13ルーブリ、コルム10ルーブリと、マリュータ・ルキヤノヴィチ・ベリスキーの永代供養のための1.5ルーブリとヴォロジメル・ベリスキーのため20ルーブリの計145.5ルーブリ²³¹
- ④短い祈りため1ルーブリ、バターのため100ルーブリ、喜捨として13ルーブリ、コルムとして10ルーブリの計124ルーブリ²³²
- ⑤短い祈りため1ルーブリ、バターのため100ルーブリ、喜捨として13ルーブリ、コルムのため30ルーブリと、マリュータ・ルキヤノヴィチ・ベリスキーのため50ルーブリの計194ルーブリ²³³
- ⑥修道院長と修道士たちに200ルーブリ、バターのため50ルーブリ、コルムのため10ルーブリ、130人の修道士に1人グリヴナずつで13ルーブリ、短い祈りのため1ルーブリ、マリュータ・ベリスキーと彼の息子ゴリヤーインのコルムのため10ルーブリ、総計284ルーブリ²³⁴
- ⑦コルムのため5ルーブリ、130人の修道士に1人につき1アルトゥインずつ計3ルーブリ30アルトゥイン、短い祈りのため1ルーブリ²³⁵
- ⑧バターのため50ルーブリ、短い祈りのため1ルーブリ、至聖生神女庇護祭のため3ルーブリ、マリュータ・ルキヤノヴィチ・ベリスキーのコルムのため10ルーブリ、ソコルで倒れたジェチ・ボヤールスキエのため100ルーブリの計164ルーブリ²³⁶
- ⑨短い祈りのため1ルーブリ、コルムのため10ルーブリ、修道士たちに13ルーブリ、バターのため50ルーブリ、喜捨として50ルーブリの計124ルー

²³¹ Там же, С. 88. マリュータは「ちび助」という意味であり、彼の本名はグリゴリー・ルキヤノヴィチ・スクラートフ・ベリスキーである（?～1573年）。娘の一人はイワン4世の従弟イワン・ミハイロヴィチ・グリンスキーと、娘マリヤはボリス・フョードロヴィチ・ゴドゥノーフと、もう一人の娘エカチェリーナはドミトリー・イワノヴィチ・シューイスキーと、それぞれ結婚している（Русский биографический словарь (Далее РБС) (Сабанеев-Смыслов) (Репринтное воспроизведение, Аспект Пресс. М., 1999), С. 627)。

²³² ВХКпрк, С. 95-96.

²³³ Там же, С. 104.

²³⁴ Там же, С. 135-6.

²³⁵ Там же, С. 142.

²³⁶ Там же, С. 148.

ブリ²³⁷

⑩喜捨として18ルーブリ²³⁸

⑪バターのため100ルーブリ, 喜捨として13ルーブリ, コルムのため7ルーブリ, 短い祈りのため1ルーブリ, 計121ルーブリ²³⁹

⑫息子イワン・イワノヴィチの永代供養のため700ルーブリ²⁴⁰

(2) アルダサエヴィチ公家

①セメン²⁴¹

(3) グリンスキー公家

①イワン・ミハイロヴィチ²⁴²

②イワン・ミハイロヴィチ・グリンスキー公妃²⁴³

(4) ゴドゥノーフ家

①ボリース・フョードロヴィチ²⁴⁴

②マリヤ (ボリース・フョードロヴィチ・ゴドゥノーフの妻) ²⁴⁵

③グリゴリー・ワシリエヴィチ²⁴⁶

²³⁷ Там же, С. 189.

²³⁸ Там же, С. 193.

²³⁹ Там же, С. 193.

²⁴⁰ Там же, С. 203.

²⁴¹ 短い祈りのために0.5ルーブリ (Там же, С. 87)。

²⁴² 短い祈りと死者の追悼祈禱のため1ルーブリ (Там же, С. 191)。彼はイワン4世の従弟で、彼の妻はマリユータ・スクラトフーベリスキーの娘である。彼は、トロイツェ・セルギエフ修道院内に埋葬されている (РБС (Герберский-Гогенлоэ) (Rep. by Kraus Reprint Corporation, New York, 1962), С. 320-322)。

²⁴³ コルムのため5ルーブリ, 短い祈りと死者の追悼祈禱のため1ルーブリ (ВХКпрк, С. 193)。

²⁴⁴ 短い祈りのため0.5ルーブリとコルムのため10ルーブリ, 母の永代供養ため50ルーブリ, 短い祈りと死者の追悼祈禱のため0.5ルーブリ (Там же, С. 99, 102, 188)。なお, 彼は, 寝殿官ドミートリー・ゴドゥノーフの甥で, 妹イリナはフョードル1世の妻である (1580年に結婚, 1603年没)。1580年に大貴族, 1598年に皇帝となる (РБС (Бетанкур-Бякцтер) (Репринтное воспроизведение. Аспект Пресс. М., 1995), С. 238-250を参照)。

²⁴⁵ 父マリユータ・ベリスキーのためコルムとして5ルーブリと短い祈りと死者の追悼祈禱のため1ルーブリ, 短い祈りと死者への追悼祈禱のため1ルーブリとコルムのため5ルーブリ, 短い祈りのため0.5ルーブリとコルムのため4ルーブリ30アルトゥイン, コルムのため5ルーブリ, 短い祈りと死者の追悼祈禱のため1ルーブリ (ВХК, С. 89, 101, 148, 193-4)。なお, マリヤはマリユータ・ベリスキーの娘で, 本名は, マリヤ・グリゴリエヴィチ・スクラトヴァである。

²⁴⁶ ボリス・ツィブレチェフと共に, 短い祈りのため38アルトゥインを寄進している (Там же, С. 240)。

④グリゴリー・ワシリエヴィチの妻²⁴⁷

(5) コルィチェフ家

コルィチェフ・ウムノイ家は貴族の家柄である²⁴⁸。

①イワン²⁴⁹②フョードル・イワノヴィチ²⁵⁰。

(6) ゴリーツィン公家

①ワシーリー・ユーリエヴィチ²⁵¹

(7) シャイジャコフ公家

①ピョートル（・トゥタエヴィチ）の妃²⁵²

(8) スコピン-シュイスキー公家

①ワシーリー・フョードロヴィチ²⁵³

(9) ズヴェニゴロド公家

①イワン・アンドレーエヴィチ²⁵⁴

ルザ郡ロストヴェツコイ・スタンの大公領ソロシネヴォ村と同村に付属する 12 部落・1 荒蕪地、同郡ザモシエ郷内の 2 部落を封地として持つと同時

²⁴⁷短い祈りのため 4 アルトゥイン (Там же, С. 149)。

²⁴⁸АФЗХ, Ч. 2, No.No. 240, 302, 374, 375, 379, 422.

²⁴⁹短い祈りのため 1 グリヴナ (ВХКпрк, С. 22)。ユーリー・アンドレーエヴィチ・オボレンスキー公の 1547 - 65 年の遺言状の中にイワン・ボリソヴィチ・コルィチェフへの言及がある (АФЗХ, Ч. 2, No. 207) が、同一人物であるかどうかは不明である。

²⁵⁰短い祈りのため 1 ループリ (ВХКпрк, С. 3)。РБС (Кнаппе-Кюхельбекер) (Репринтное воспроизведение. Аспект Пресс. М., 1995), С. 84 を参照。

²⁵¹短い祈りのため 0.25 ループリ (ВХКпрк, С. 1)。

²⁵²短い祈りのため 10 アルトゥインを 2 回と 0.25 ループリ (Там же, С. 191, 196, 200)。

²⁵³短い祈りのため 1 グリヴナ (Там же, С. 98-9)。

²⁵⁴死者の追悼祈祷のため 4 グリヴナと短い祈りのため 7 アルトゥイン 2 ジェーニガ, コルムのため 5 ループリと短い祈りのため 0.25 ループリの計 5.25 ループリ, 短い祈りのため 0.5 ループリと 1 グリヴナずつ, コルムのため 5 ループリと両親の追悼祈祷のため 0.5 ループリ (Там же, С. 22, 135, 145, 155, 188)。

に、同郡ルニャニコフ・スタンに世襲領としてスモロコヴォ小村（アンドレイ・ダシコフ公から購入）と同村に付属する 1 部落を持っていた²⁵⁵。

(10) チェリャチェーフスキー公家

① アンドレイ・(アンドレーイエヴィチ) ²⁵⁶の妃²⁵⁷

(11) チェルカースキー公家

① セメン²⁵⁸

セメン・アルダニエヴィチが、ルザ郡スイチェフスキー・スタンのヴォスクレセンスコエ村と同村に付属する 15 部落を世襲領として持っていた²⁵⁹。

(12) トゥルベツコイ公家

① フョードル・ミハイロヴィチ²⁶⁰

(13) トクマコフ公家

① ユーリー・イワノヴィチ²⁶¹

ルザ郡スキルマノフスキー・スタンのスヴェチェフスコエ村と同村に付属する 34 部落、新開地、2 つの荒蕪地、3 つの集落跡、ポゴストを世襲領として持っていた²⁶²。

② イワン・ユーリエヴィチ²⁶³

²⁵⁵РУПК, С. 41, 42, 107, 69.

²⁵⁶? - 1612 年。イワン 4 世が、皇太子イワンが 7 歳の時に、遺言執行人として選んだ 7 人のうちの 1 人であるが、貴族の位階を持たない新参者であった (*Елена Грушко, Юрий Медведев, Указ. соч., С. 400*)。

²⁵⁷短い祈りのため 2 グリヴナを 3 回 (ВХКпрк, С. 3, 157, 195)。

²⁵⁸短い祈りのため 2 グリヴナ (Там же, С. 132)。イワン 4 世の 2 番目の妻がマリヤ・テムリュコヴナ (チェルカースカヤ) で、1569 年没。彼女の兄弟ミハイル・チェルカースキーは、オプリーチニナ初期の貴族会議の形式的な指導者であったが、このセメンとの関係は不明である。

²⁵⁹РУПК, С. 37-39.

²⁶⁰妻及び子供たちの健康に対する神の祈りを願って 50 ルーブリ、両親を過去帳へ記載するため 5 ルーブリと短い祈りと死者の追悼祈祷のため 0.5 ルーブリ (ВХКпрк, С. 189, 193)。

²⁶¹ニコリスコエ村と交換にズヴェニゴロド公たちの永代供養を行うために 150 ルーブリ及び小村スマコヴォの代金 40 ルーブリ (Там же, С. 22)。

²⁶²РУПК, С. 137-140.

²⁶³父ユーリー・イワノヴィチ・トクマコフ公の永代供養のため 50 ルーブリ (ВХКпрк, С. 103-4)。

(14) ドミトロフ公家

- ①ユーリー（・イワノヴィチ）
- ²⁶⁴

(15) ナゴイ家

- ①アフナーシー・フョードロヴィチ
- ²⁶⁵

- ②アンドレイ・フョードロヴィチ
- ²⁶⁶

ルザ郡ロクヌィシスキー・スタンに世襲領としてパルフェニエヴォ村と同村に付属する4つの部落を持っていた²⁶⁷。

- ③セメン・フョードロヴィチ
- ²⁶⁸

(16) ブトゥルリン家

- ①フォマ（・アフアナシエヴィチ）
- ²⁶⁹

(17) プレシチェーエフ家

プレシチェーエフ家は、オプリーチニナ初期に貴族会議において、事実上の実権を握っていた。

- ①イワン（グリゴリーの息子）
- ²⁷⁰

- ②イワン・ドミトリエヴィチ
- ²⁷¹

イワンは、1564年にポロツクの軍司令官を務めるなど、各地に軍司令官として派遣された²⁷²。

²⁶⁴ コルムのため10ルーブリ（Там же, С. 10）。

²⁶⁵ 短い祈りのため3アルトゥイン4ジェーニガ（Там же, С. 148）。イワン4世は、彼の影響下に、「分領」貴族会議に彼の兄弟フョードルを引き入れ、侍従官の位階を与えた。後に、イワン4世の7番目の妻となるマリヤ・ナガイは、彼の姪である。

²⁶⁶ 短い祈りと死者の追悼祈禱のため20アルトゥイン（Там же, С. 195）。

²⁶⁷ РУПК, С. 195.

²⁶⁸ 母エヴドキアのため10ルーブリ、短い祈りと死者の追悼祈禱のため0.5ルーブリ（ВХКпрк, С. 188）。

²⁶⁹ 両親のコルムのため5ルーブリ（Там же, С. 189）。

²⁷⁰ 父グリゴリーのコルムのため5ルーブリ、両親の追悼祈禱のため0.5ルーブリ、短い祈りのため0.25ルーブリ（Там же, С. 243）。また、ワシーリー・オレフノフ、ステファン・クヴァシニンとともに、短い祈りのため1グリヴナを寄進している（Там же, С. 87）。

²⁷¹ 父の追悼祈禱のため0.5ルーブリ（Там же, С. 246）。

²⁷² РБС (Плабильщиковъ-Примо) (Репринтное воспроизведение издания 1896 года. Аспект Пресс, М., 1999), С. 103.

(18) ベリスキー家

- ① ヴァシアン²⁷³
- ② ヴェリーガ (グリゴリーの息子) ²⁷⁴
- ③ グリゴリー・イワノヴィチ²⁷⁵
- ④ ボグダン・シドロヴィチ²⁷⁶
- ⑤ ボグダン・ヤコヴレヴィチ²⁷⁷
- ⑥ ボグダン・ヤコヴレヴィチの妻²⁷⁸
- ⑦ オフィミヤ (ボグダンの母) ²⁷⁹
- ⑧ マリヤ (オフィミヤの娘) ²⁸⁰
- ⑨ ゴリヤーイン (マリユータ・ルキヤノヴィチ・ベリスキーの息子) ²⁸¹
- ⑩ エカチェリーナ (マリユータの娘) ²⁸²
- ⑪ イリヤ (マリユータの兄弟) ²⁸³

(19) ホフスキー公家

- ① アンドレイ²⁸⁴

(20) ムスチスラフスキー公家

²⁷³ 自己の埋葬地の手洗皿にと 2.5 ルーブリ (ВХКпрк, С. 16)。

²⁷⁴ 短い祈りのため 2 グリヴナ及び, イワン・キルママエヴィチ公と姉妹で公妃エレナのコラムのため 5 ルーブリ, 父グリゴリーのコラムのため 5 ルーブリ, 短い祈りのため 1 グリヴナ (Там же, С. 6)。

²⁷⁵ 短い祈りのため 1 グリヴナと 1 ルーブリ (Там же, С. 90)。彼は, 仲間たちとともに, 短い祈りのため 4 アルトゥインを寄進している (Там же, С. 105)。

²⁷⁶ 自己の健康に対する神の祈りを願って, 30 ルーブリ (Там же, С. 189)。

²⁷⁷ コラムとして 12 ルーブリと短い祈りと死者の追悼祈祷のため 1 ルーブリ, 短い祈りのため 0.5 ルーブリ, 500 ルーブリ, 母である修道女エレナのため 100 ルーブリ (Там же, С. 88, 104, 136, 203)。彼は, ボグダン・シドロヴィチと共に, ベーリ郡に所在する世襲領エリチャニノフのイワノフスカヤを売却し, その代金 200 ルーブリを寄進している (Там же, С. 203)。

²⁷⁸ コラムのため 5 ルーブリ, 短い祈りと死者の追悼祈祷のため 1 ルーブリ (Там же, С. 193)。

²⁷⁹ 両親のコラムのため 7 ルーブリ, 短い祈りと死者の追悼祈祷のため 1 ルーブリ (Там же, С. 15)。

²⁸⁰ 短い祈りのため 0.5 ルーブリ (Там же, С. 15)。

²⁸¹ 母で修道女マレミヤンの永代供養のため 50 ルーブリ (Там же, С. 102)。

²⁸² コラムのため 10 ルーブリ, 短い祈りと死者の追悼祈祷のため 1 ルーブリ (Там же, С. 193)。ドミトリー・イワノヴィチ・シュイスキー公の後である。

²⁸³ 20 ルーブリ, 7 ルーブリと短い祈り及び死者の追悼苦闘のため 0.5 ルーブリ (Там же, С. 89, 96)。

²⁸⁴ 短い祈りのため 2 グリヴナ (Там же, С. 12)。

①イワン・フョードロヴィチ²⁸⁵

(21) メジェツキー公家

①ミハイル²⁸⁶妃²⁸⁷

(22) ユーリエフーザハーリン家

①ニキータ・ロマノヴィチ²⁸⁸

(23) ロストフスキー公家

①ピョートル²⁸⁹

(24) 大公シメオン・ベクブラトヴィチ²⁹⁰

(25) 皇帝セミヨン・カサイエヴィチの妃マリヤ²⁹¹

(26) 皇子ミハイロ・カイプロフ²⁹²

²⁸⁵ 息子ワシーリー公のため 100 ルーブリ (Там же, С. 202)。彼は、イワン 4 世死後の貴族会議の指導者で、ゼームシチナ貴族会議を公式的には指導し、1572 年、ノヴゴロドの主総督に任命された。寡婦となっていた娘は、シメオン・ベクブラトヴィチと結婚した。

²⁸⁶ ワシーリーの息子で、ルザ郡ロクヌィシスキー・スタンに世襲領としてエフネヴォ村と同村に付属する 9 つの部落、3 つの荒廃した部落を持っていた (РУПК, С. 200, 201)。

²⁸⁷ 短い祈りのため 1 グリヴナ (ВХКпрк, С. 157)。

²⁸⁸ 短い祈りのため 1 グリヴナを 2 回、兄弟ダニールと甥イワン及びフョードルのため 200 ルーブリ、100 ルーブリ、母アナスタシーヤの永代供養とコルムのため 100 ルーブリ (Там же, С. 6, 10, 11, 156)。生年は不明であるが、1586 年に没している。イワン 4 世の最初の妻であるアナスタシーヤの弟。したがって、イワン 4 世の息子イワンとフョードルの伯父である。妃はイリナで、イリナの兄がボリス・ゴドゥノフである。ゼームシチナ貴族会議を実際に指導した 1 人で、宮廷官。息子がフョードル・ニキチッチ・ロマノフ (フィラレート) (1553 年～1633 年) で、フィラレートの息子 (したがって、ニキータの孫) がロマノフ朝最初の皇帝となったミハイル・フョードロヴィチ・ロマノフである。

²⁸⁹ グリゴリー・カレリンスキーと共に、短い祈りのため 3 アルトゥインを寄進している (Там же, С. 100)。

²⁹⁰ コルムのため 10 ルーブリ、短い祈りのため 1 ルーブリ (Там же, С. 183)。1578 年秋、イワン 4 世は、カザン皇子であったシメオン (セミヨン)・ベクブラトヴィチを「全ルーシの大公」とし、自らはモスクワ公と称するという行動に出ている。シメオンはチングス・ハンにさかのぼるといふ名門の出で、サイン・ブラートが元の名前である。1570 年以来カシモフ「皇 (帝) 国」のツァーリで、その後洗礼を受けてシメオンと名乗った。翌年夏、シメオンはトヴェーリに分領を与えられて、大公位を降りた。ところが、この寄進が記載されているのは、1581 年 5 月 7 日付である。シメオンは、この時点でも「大公」と称していたのであろうか。

²⁹¹ 両親の追悼祈禱のため 20 アルトゥイン (Там же, С. 7)。

²⁹² コルムのため 5 ルーブリ、短い祈りのため 0.5 ルーブリ (Там же, С. 9)。

このように、大公イワン4世のほか、23家系の44人が登場している。イワン4世をはじめ、後の皇帝ボリース・ゴドゥノフ、ロマノフ朝に繋がるニキータ・ロマノヴィチなど、対象となっている時期の政府中枢において中心的な役割を果たしていた人物が、寄進者として登場している。このような寄進者の顔ぶれは、その構成及び時期による変遷などについては詳細な検討を行う必要があると思われるが、当該修道院が当時の支配層と強いつながりを持っていた修道院の一つであったことを示唆しているであろう。

V

その他、前述の範疇に分類できないものや、どの範疇に分類すべきか不明なものを列挙すると、次のようになる。

- (1) アガフォン（剃髪者）²⁹³
- (2) アキーニャ²⁹⁴
- (3) フョードル・アブラモフ²⁹⁵
- (4) ワシーリー・イズマイロフ²⁹⁶
- (5) ワシーリー（フョードルの息子）²⁹⁷
- (6) ヴェレシャーガ²⁹⁸
- (7) ステパン・オグロブリン²⁹⁹
- (8) メルクール・オコエモフ³⁰⁰

²⁹³ ルーブリ（Там же, С. 203）。

²⁹⁴ 短い祈りのため1グリヴナ（Там же, С. 5）。

²⁹⁵ 短い祈りのため1グリヴナを2回（Там же, С. 3, 8）。

²⁹⁶ 短い祈りのため1グリヴナ（Там же, С. 133）。

²⁹⁷ 両親のため2ルーブリ（Там же, С. 136）。

²⁹⁸ 短い祈りのため0.25ルーブリと6アルトゥイン2ジェーニガ（Там же, С. 1, 4）。

²⁹⁹ 短い祈りのため1グリヴナ（Там же, С. 19）。

³⁰⁰ 両親の過去帳への記載のため1ルーブリ、父母のために2.5ルーブリ、短い祈りのため1グリヴナ（Там же, С. 87, 104, 144）。

- (9) トンキー・ガヴリーロフ³⁰¹
- (10) ボイン・キンドゥイロフ³⁰²
- (11) ピョートル・グービン³⁰³
- (12) ガヴリール・グリジェンコフの兄弟と仲間たち³⁰⁴
- (13) イワン (ネチャイ・クリネフの息子) ³⁰⁵
- (14) オクリナ (ヴェリシャーガ・ゴリャイノフの妻) とイワン・ボルシチョフ³⁰⁶
- (15) イワン・コロヴィン³⁰⁷
- (16) キリロ・シシモレフ (フョードルの息子) ³⁰⁸
- (17) フョードル・シシモレフ³⁰⁹
- (18) クダイ³¹⁰
- (19) ヤコフ・シーモノフ³¹¹
- (20) イワン・シャポーチニク (マクシム・シャポーチニクの息子) ³¹²
 1580年3月16日付で、彼から478.75プードの蜂蜜を159.5ルーブリで購入している³¹³。

³⁰¹ ヴォロク公たちと修道士カシヤンのための喜捨 23 ルーブリ 10 アルトゥイン (Там же, С. 139)。

³⁰² 父母, 本人, 兄弟の永代供養のため 50 ルーブリ (Там же, С. 102)。

³⁰³ 短い祈りのため 1 グリヴナ (Там же, С. 96)。

³⁰⁴ 短い祈りのため 2 グリヴナ (Там же, С. 96)。

³⁰⁵ 短い祈りのため 1 グリヴナ (Там же, С. 21)。

³⁰⁶ 短い祈りのため 0.25 ルーブリ (Там же, С. 105)。

³⁰⁷ 短い祈りのため 1 グリヴナ (Там же, С. 94)。

³⁰⁸ 母である修道女マレミヤナを永代記録へ記載するため 0.25 ルーブリ, そして, 妻ワルワラを1年間日々の過去帳へ記載することを願って, 1 ルーブリ (Там же, С. 240)。

³⁰⁹ 短い祈りのため 2 グリヴナ (Там же, С. 200)。

³¹⁰ 短い祈りと死者の追悼祈祷のため 0.5 ルーブリ (Там же, С. 184)。

³¹¹ 短い祈りと死者の追悼祈祷のため 2 グリヴナ (Там же, С. 202)。

³¹² 短い祈りのため 5 アルトゥイン (Там же, С. 145)。

³¹³ Там же, С. 179.

- (21) マクシム・シャポーチニク (エリザルの息子) ³¹⁴
 彼からは3度蜂蜜を購入したことが記載されている。まず、1573年11月30日付で10ルーブリ分、1574年3月4日付で413プード(200ルーブリ)分、1576年2月10日付で1170.25プード(520ルーブリ)分となっている³¹⁵。
- (22) セメイカ (聖像画家で、モスクワの人) ³¹⁶
- (23) セメン³¹⁷
- (24) アンドレイ・セモニン (チモフェイの息子) ³¹⁸
- (25) イワン・ゾロツコイ³¹⁹
- (26) ピョートル・タブティコフとアレクセイ・ルーキン³²⁰
- (27) エウストラティール・チョムノイ³²¹
- (28) トレチャーク・チェルヌィシェフ³²²
- (29) イワン・ティルコフ³²³
- (30) ジノヴェイ・デミドフ³²⁴
- (31) マトヴェイ・デミドフ³²⁵

³¹⁴死者の追悼祈祷のため0.25ルーブリ、短い祈りのため1グリヴナ (Там же, С. 96)。

³¹⁵Там же, С. 56, 73, 122.

³¹⁶兄弟である修道士イオナのため0.25ルーブリ (Там же, С. 191)。

³¹⁷自己及び両親を過去帳に記載するため5ルーブリと5ルーブリ相当の去勢馬 (Там же, С. 4)。

³¹⁸兄弟アフナーシー (ゲラシム・タシリコフの息子) の永代供養のため25ルーブリと彼のために5ルーブリ (Там же, С. 21, 23)。

³¹⁹短い祈りのため1グリヴナを2回 (Там же, С. 11, 23)。

³²⁰短い祈りのため3アルトゥイン (Там же, С. 145)。

³²¹両親のため1ルーブリ (Там же, С. 144)。

³²²短い祈りのため10ジェーニガ (Там же, С. 91)。

³²³短い祈りのため1グリヴナを2回 (Там же, С. 151, 188)。

³²⁴短い祈りのため0.25ルーブリと1グリヴナ (Там же, С. 98, 196)。

³²⁵死者の追悼祈祷のため0.25ルーブリ (Там же, С. 107)。このデミドフとの関係は不明であるが、1573年7月9日にモスクワで、デミドフの息子セメンから、胡椒、ショウガ、乾燥したチョウジの蕾(計2ルーブリ)を購入している (Там же, С. 33)。

- (32) トゥルコフ (イワンの息子) ³²⁶
- (33) フョードル・ドゥルノヴォ ³²⁷
- (34) オサン・ニゾフツォフ (ゴレムィカの息子) ³²⁸
- (35) ザーハリー・ネプリヨーエフ ³²⁹
- (36) ポスニク・ネプリヨーエフ ³³⁰
- (37) ヴァシアン・フェルノフ ³³¹
- (38) コスチャンチン・フォファノフ ³³²
- (39) ニコン・プロトポポフ (セミヨンの息子) ³³³
- (40) フョードル (トヴェーリの人) ³³⁴
- (41) ネホロショイ・フロポフ ³³⁵
- (42) チモフェイ・ペトロフ ³³⁶
- (43) セメイカ・ボスコフ (剃髪者) ³³⁷

³²⁶5 ルーブリ (Там же, С. 4)。

³²⁷娘婿ネクリュードのろうそくのため1アルトゥイン (Там же, С. 155)。

³²⁸母及び兄弟のため1ルーブリ (Там же, С. 187)。

³²⁹2 ルーブリ 12アルトゥイン (Там же, С. 245)。彼は、以前に穀物を寄進している。

³³⁰短い祈りのため0.25ルーブリ、そして、剃髪した際、1ルーブリと総計9ルーブリ相当の去勢馬・テーブルクロスなど (Там же, С. 91, 98)。

³³¹短い祈りと死者の追悼祈祷のため1ルーブリ (Там же, С. 195)。

³³²短い祈りのため1グリヴナ (Там же, С. 153)。

³³³短い祈りのため0.5ルーブリ (Там же, С. 196)。

³³⁴修道士フェグノストとなるに際して、10ルーブリ (Там же, С. 154)。

³³⁵神への祈りと過去帳への記載のため10ルーブリ (Там же, С. 88-89)。

³³⁶短い祈りのため1グリヴナと0.25ルーブリ (Там же, С. 157, 144)。

³³⁷6 ルーブリ (Там же, С. 203)。

(44) イエフ・ミージノフ (モスクワのゴスチ) ³³⁸

彼から、蜂蜜 33 プードを 15 ルーブリで購入していることが、1581 年 12 月 14 日付の覚書の中に記載されている³³⁹。

(45) ミハイル³⁴⁰(46) ロパタ・ユーリエフ³⁴¹

このように、46 人を挙げたが、ミージノフやシャポーチニク親子のような蜂蜜を商っている人物や、聖像画家セメイカ、アガフォン、セメイカ・ボスコフ、ポスニク・ネプリョーエフやフョードルのような剃髪者（修道士）など、職業や階層が明確な人物 8 人を除くと、38 人の所属が不明である。

この 46 人の中で、寄進額の特目立つ人物は、ボイン・キンドゥイロフの 50 ルーブリ、ゴスチであるミージノフの 50 ルーブリ、アンドレイ・セモニンの 30 ルーブリ、トーンキー・ガヴリーロフの 23 ルーブリ 10 アルトゥイン、ポスニク・ネプリョーエフの 10 ルーブリ余り、フョードルの 10 ルーブリ、セメンの 5 ルーブリと 5 ルーブリ相当の去勢馬、ネホロシヨイ・フロポフの 10 ルーブリであろう。この 8 人のうち、ミージノフについては、前述のように蜂蜜を商う商人であることが分かっており、ポスニク・ネプリョーエフとフョードルについても修道士となっている。この 3 人の人物以外の 5 人については、その寄進額が高額であることを考慮しなければならないであろう。

以上の 13 人を除いた 33 人のうち、ワシーリー（フョードルの息子）、メルクール・オコエモフ、キリロ・シシモレフ（フョードルの息子）、エウストラティー・チョムノイ、トゥルコフ（イワンの息子）、オサン・ニゾフツォフ（ゴレムィカの息子）、ザーハリー・ネプリョーエフ、ヴァシアン・フェルノフのように、1 ルーブリ以上を寄進している者（8 人）と、それに満たない 25 人とを区別しなければならないかもしれない。

³³⁸ 50 ルーブリ (Там же, С. 93)。このミージノフについては、拙稿「ミージノフ家をめぐって」を参照されたい (木村尚三郎編『学問への旅—ヨーロッパ中世—』, 山川出版社, 2000 年, 257~277 ページ)。

³³⁹ ВХКпрк, С. 222.

³⁴⁰ 短い祈りのため 1 グリヴナ (Там же, С. 10)。

³⁴¹ 妻の名を過去帳に記載するため 2 グリヴナ (Там же, С. 19)。

なお、マクシム・シャポーチニクとイワン・シャポーチニクの親子、そしてイエフ・ミージノフと合わせて、3人の人物が当該修道院と蜂蜜の売買を通して関わりを持っていたことになる。そのような彼らは、寄進という形をとって、修道院との関わりをより一層明確にしていたようにも思われる。

VI

以上の当該修道院への寄進者の検討を通して、次のような点を指摘することができるであろう。

- (1) 農民層から大公に至るまで、幅広い階層の人々が、寄進者として登場していること
- (2) 農民の場合、集落によっては、個人での寄進と並んで、集落全体での寄進という形を取ることがあったこと
- (3) 農民もまた修道士となっており、その際、比較的高額の寄進を行っていること、そして、これは、おそらく、修道士になるに際して全財産を処分していることと関連するであろうこと
- (4) 農民と比較してその絶対数そのものが少なかったとは思われるが、手工業者を含む非農業者からの寄進が少なかったこと
- (5) 蜂蜜を取り扱っていたシャポーチニク親子やミージノフに見られるように、当該修道院と取引関係を結んでいた商業者と思われる人物が、寄進者として登場していること
- (6) 漁師の場合も、魚の取引関係のあったオスタシコヴァ・スロボダーの人々が寄進者として登場していること
- (7) 在地領主あるいはジェチ・ボヤールスキエについては37の家系と2人の人物を想定することになったが、それ以上である可能性も、それ以下である可能性もあること

- (8) 書記などの官職に就いていた者も寄進者として現れるが、その数は比較的少なく、高位の官職に就いていた者を例外として、寄進額も高額ではなかったこと
- (9) 大公や諸公あるいは貴族の用人あるいは従僕も寄進者として現れているが、当然のことではあるが、彼らの主人も寄進者である場合が多いこと
- (10) イワン4世、ボリス・ゴドゥノフ、マリユータ・ルキヤノヴィチの息子や兄弟、ニキータ・ロマノヴィチなど、当時の権力の中枢にいた人々と相当深い関わりを持っていたであろうこと

以上であるが、当該修道院と修道院に関わる人々との関わり的一端を示すことができたのではないだろうか。

しかし、取り扱った史料に制約があり、不十分さを拭うことはできない。当該修道院と人々との関わりをより一層明らかにするためには、検討が不十分であり、他の史料をも援用しながら、また、ジミンやチホミーロフなどの先行研究にも依拠しながら、多面的にアプローチしていくことが要請されているように思われる。